

付録

この付録では、次に示す内容について説明します。

- ミドルウェアインストール手順
 - OS 詳細設定手順
 - セキュリティパッチ一覧
 - データ連携用 PC アプリケーションのフォルダ構成
 - ファイル自動連携するためのタスクスケジューラの設定
 - タスクの有効化／無効化手順
 - タスクの実行時間帯変更手順
 - メッセージ一覧
 - データ連携用 PC のファイル送受信に係るエラーへの対処方法などについて
-

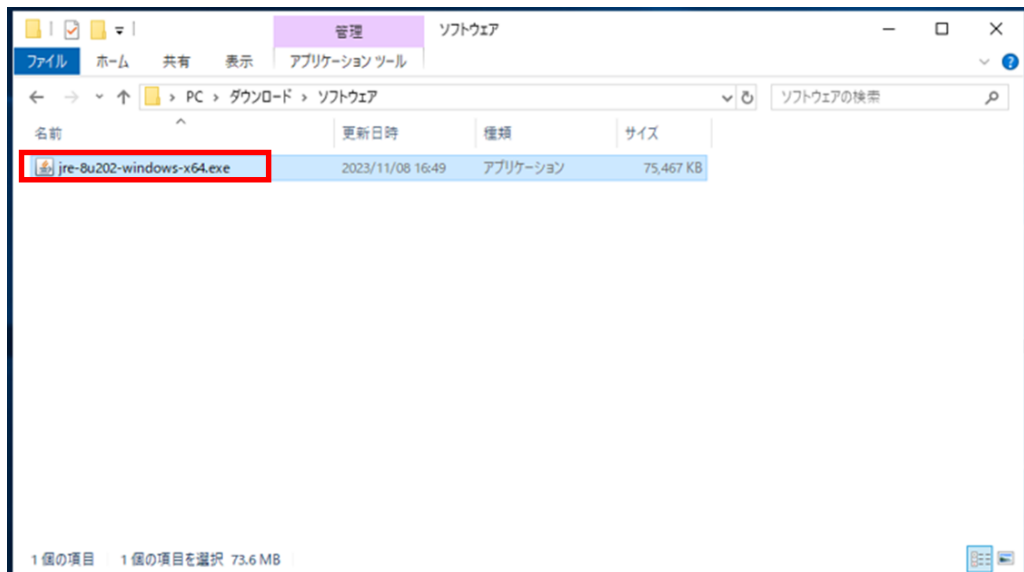
付録.A ミドルウェアインストール手順

(1) Oracle Java Standard Edition のインストール

1. エクスプローラーを起動し、Oracle Java Standard Edition のインストール資材を「資材格納フォルダ」に格納します。

注 「資材格納フォルダ」は任意のフォルダです。

2. 資材格納フォルダ配下にある「jre-8u202-windows-x64.exe」ファイルをダブルクリックします。



3. 「Java セットアップ - ようこそ」画面で、[宛先フォルダを変更する]をチェックし、[インストール]ボタンをクリックします。



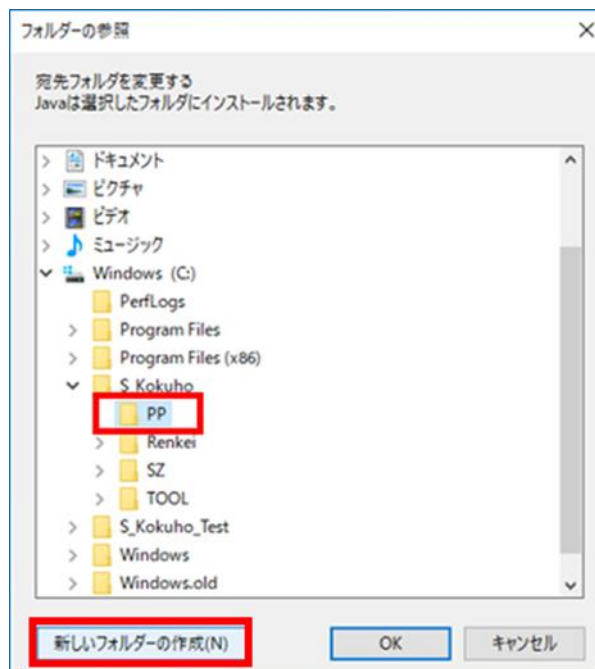
⚠ 注意事項

- ・「ライセンス条項の変更」画面が表示された場合は、[OK]ボタンをクリックして作業を続行してください。

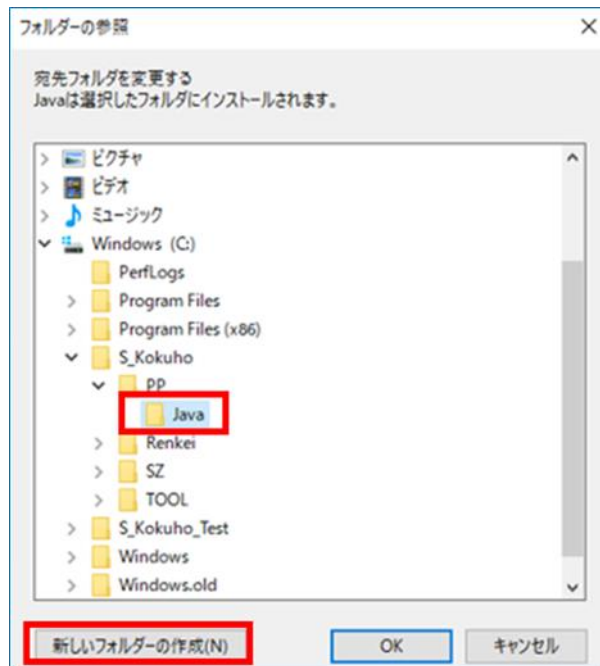
4. 「Java セットアップ - コピー先フォルダ」画面で、[変更]ボタンをクリックします。



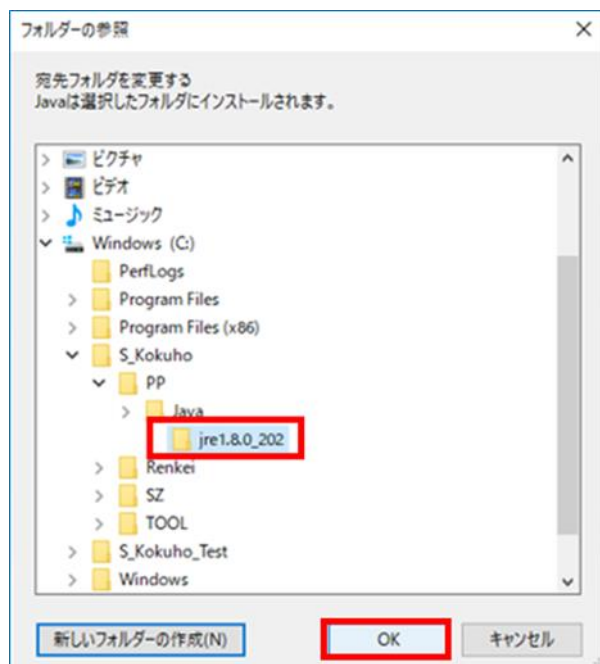
5. 「フォルダーの参照」画面で、下記の画面のとおり「C:\\$Kokuho\PP」を選択し、[新しいフォルダーの作成]ボタンをクリックします。



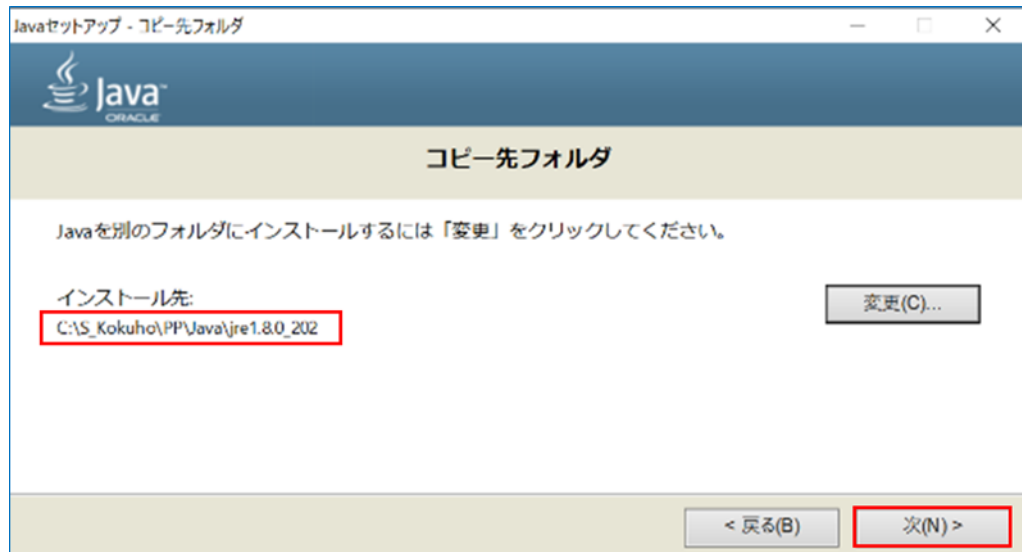
6. 「新しいフォルダー」が作成されるので、作成されたフォルダに対し下記の画面のとおり「Java」と入力し、[新しいフォルダーの作成]ボタンをクリックします。



7. 「新しいフォルダー」が作成されるので、作成されたフォルダに対し下記の画面のとおり「jre1.8.0_202」と入力し、[OK]ボタンをクリックします。



8. 「Java セットアップ - コピー先フォルダ」画面で、インストール先が「C:\S_Kokuho\PP\Java\jre1.8.0_202」となっていることを確認し、[次]ボタンをクリックします。



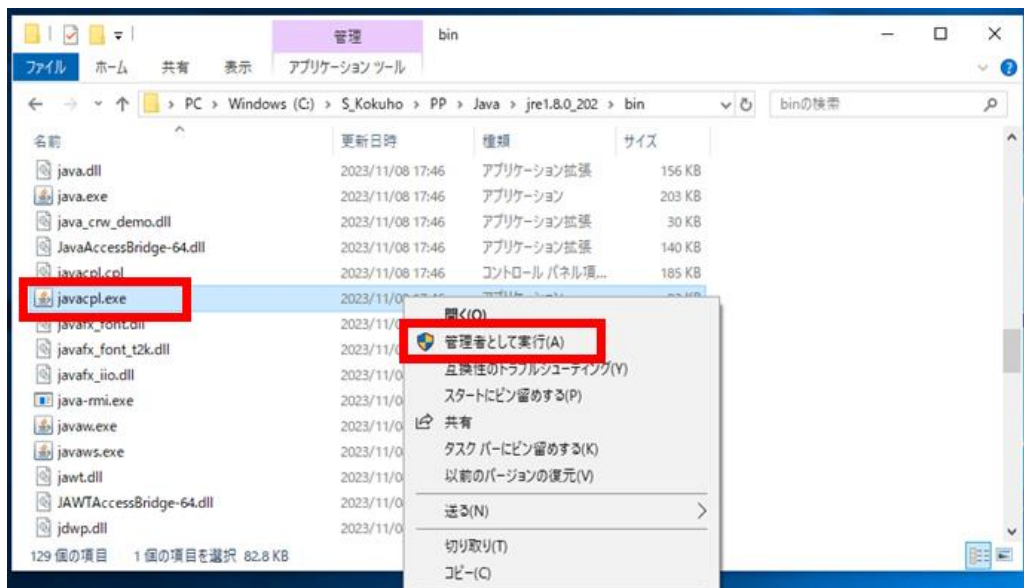
9. 「Java セットアップ - 進行中」画面で、インストールが実行されるので、しばらく待ちます（しばらく待つと、手順 10. の画面が表示されます）。



10. 「Java セットアップ - 完了」画面で、「Java が正常にインストールされました」と表示されたことを確認し、[閉じる]ボタンをクリックします。



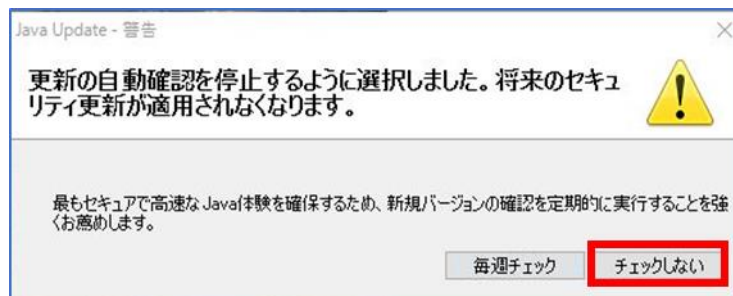
11. 「C:\%S_Kokuho¥PP¥Java¥jre1.8.0_202¥bin」フォルダ配下にある「javacpl.exe」ファイルを右クリックし、[管理者として実行]をクリックします。



12. 「Java コントロール・パネル」画面で、[更新]タブを選択し、[更新を自動的にチェック]のチェックを外します。



13. 「Java Update - 警告」画面で、[チェックしない]ボタンをクリックします。



14. 「Java コントロール・パネル」画面で、「更新を自動的にチェック」のチェックが外れていることを確認し[適用]ボタン、[OK]ボタンの順にクリックします。



15. 「エクスプローラー」画面を右上の[×]ボタンをクリックして閉じます。

付録.B OS 詳細設定手順

⚠ 注意事項

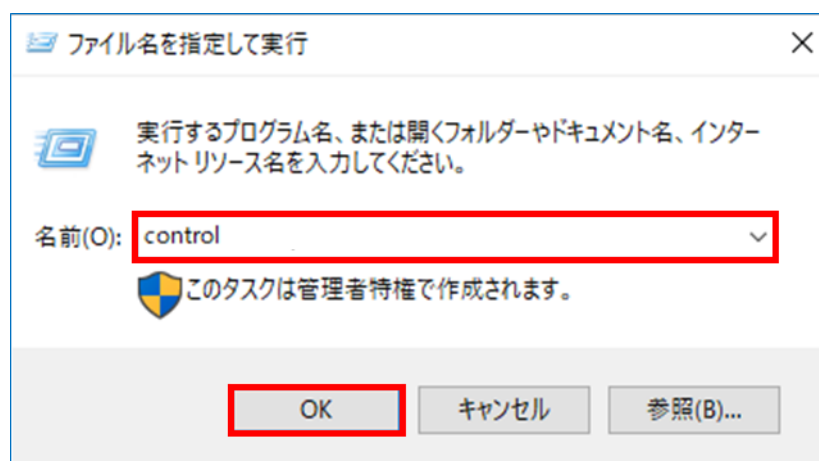
- ・ 本手順は LTSC 2019 の手順例です。バージョンによって手順に差異がある場合がありますので、バージョンに合わせて設定してください。

(1) Window Defender ファイアウォールの設定

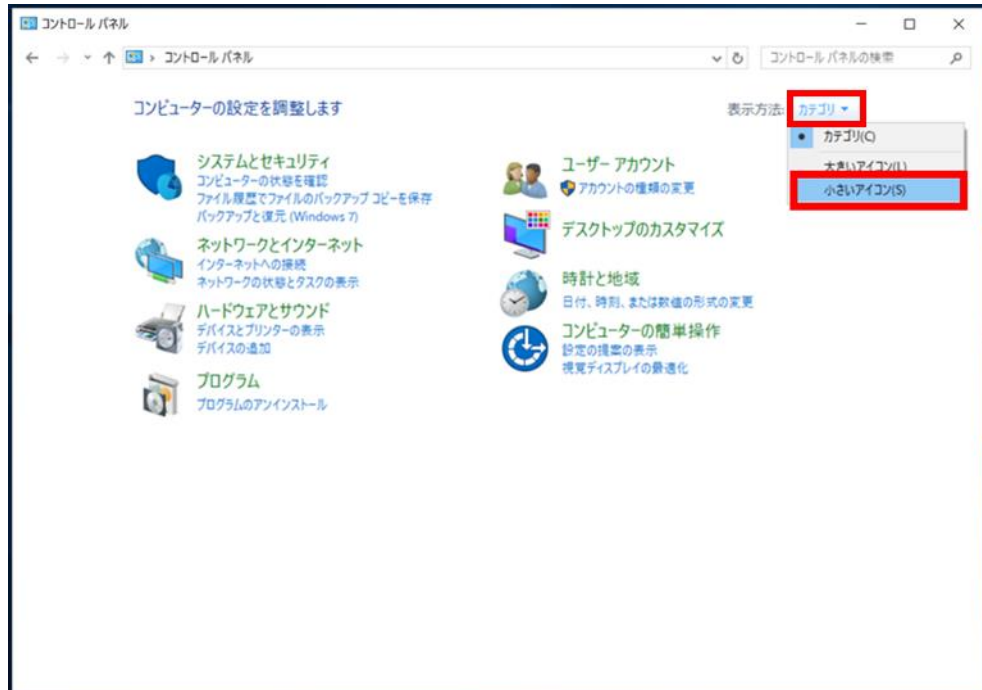
1. [スタート]アイコンを右クリックし、[ファイル名を指定して実行]をクリックします。



2. 「ファイル名を指定して実行」画面で、「名前」に「control」と入力し、[OK]ボタンをクリックします。



3. 「コントロールパネル」画面で、[カテゴリ▼]をクリックし、[小さいアイコン]をクリックします。



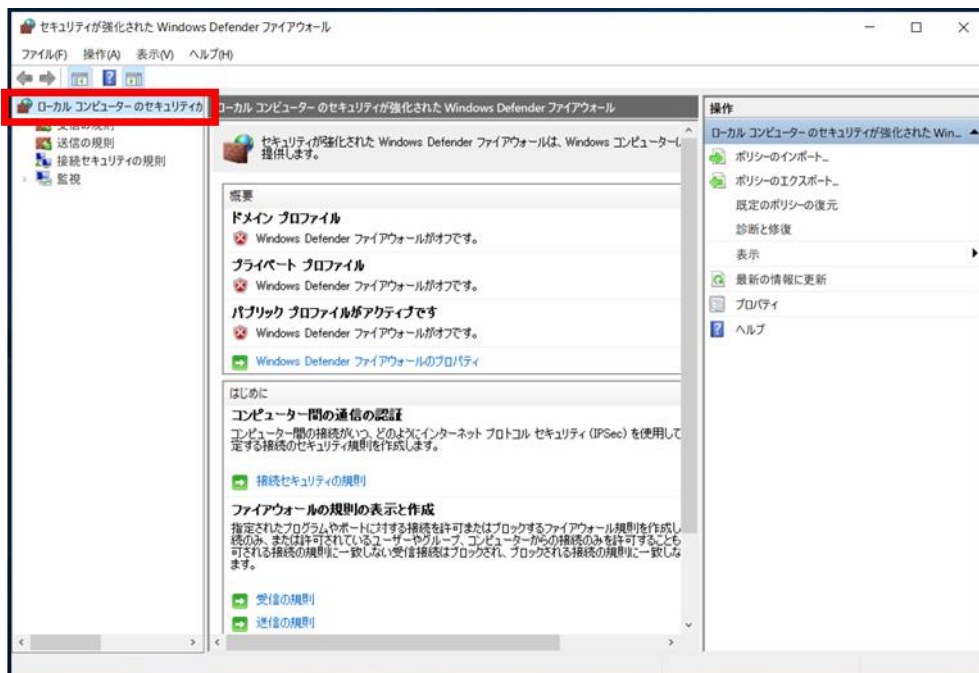
4. 「すべてのコントロールパネル項目」画面で、[Windows Defender ファイアウォール]をクリックします。



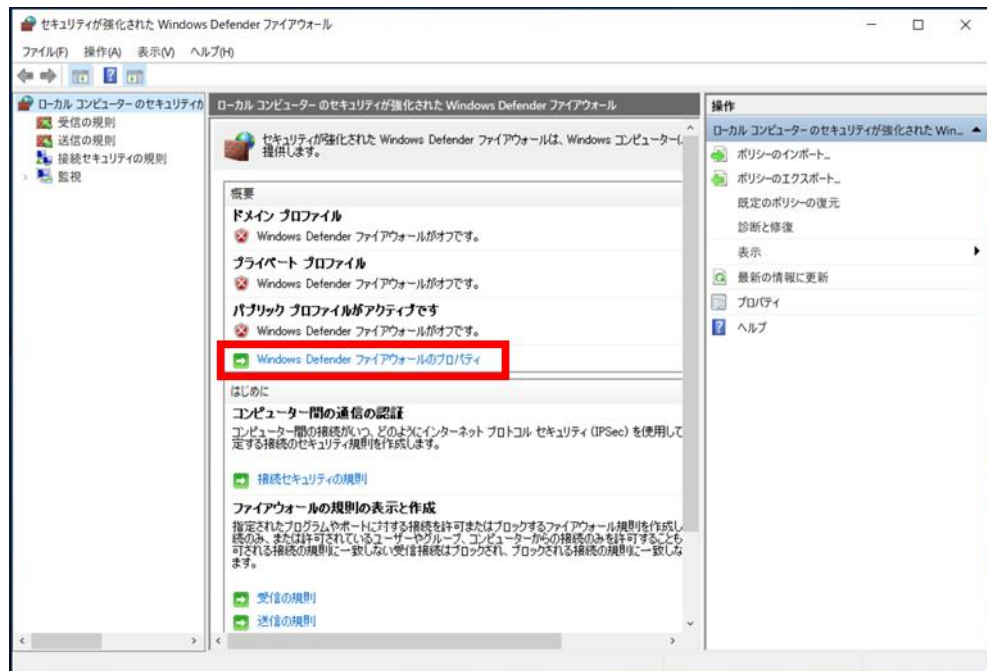
5. 「Windows Defender ファイアウォール」画面で[詳細設定]をクリックします。



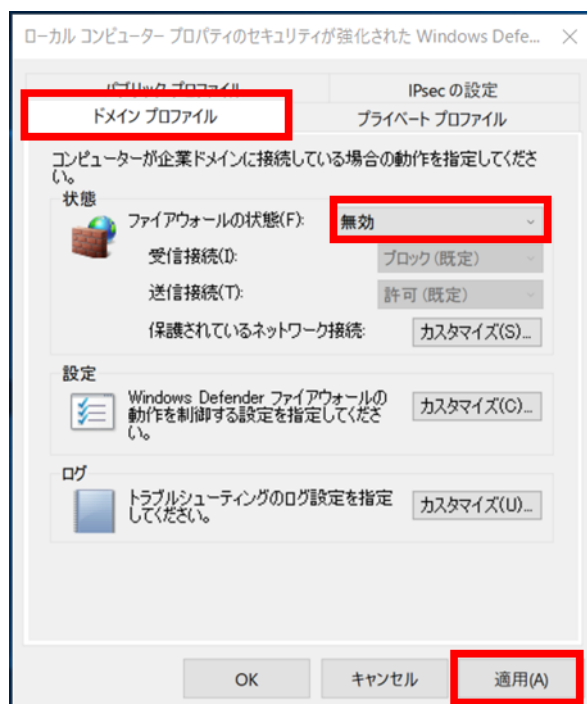
6. 「セキュリティが強化された Windows Defender ファイアウォール」画面で、[ローカル コンピューターのセキュリティが強化された Windows Defender ファイアウォール] をクリックします。



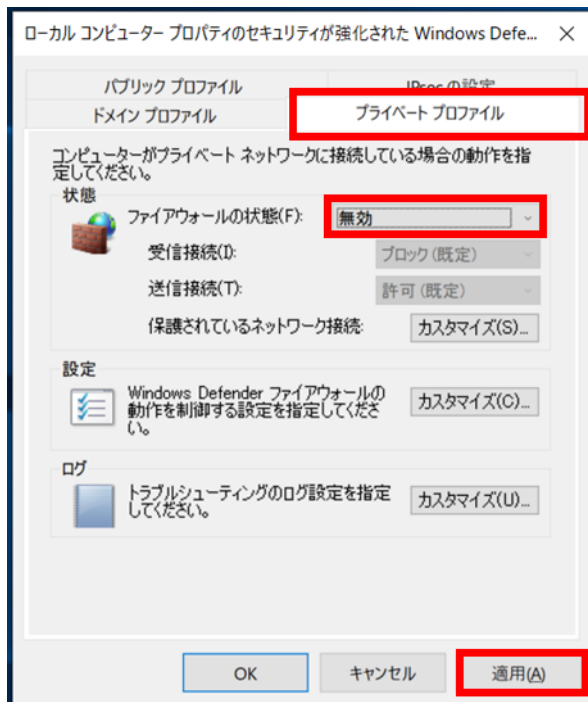
7. 「概要」欄にある[Windows Defender ファイアウォールのプロパティ]をクリックします。



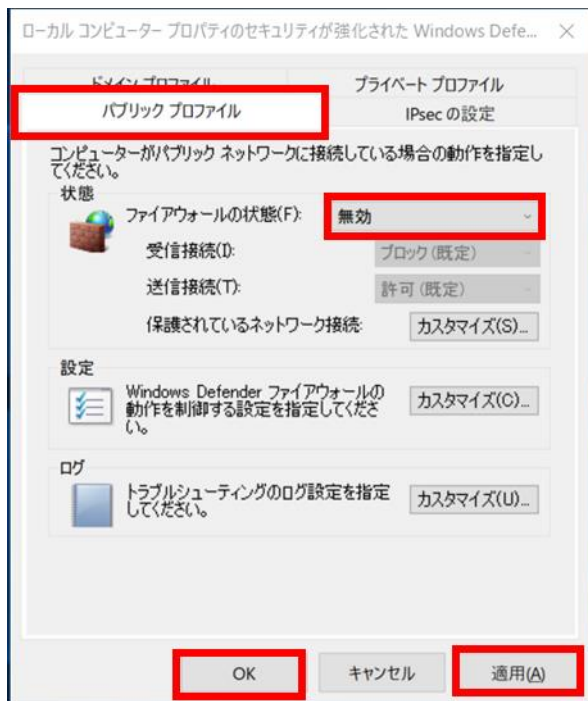
8. 「ローカルコンピュータのプロパティのセキュリティが強化された Windows Defender ファイアウォール」画面で、「ドメインプロファイル」タブをクリックし、「状態」-「ファイアウォールの状態」のプルダウンから[無効]を選択し、「適用」ボタンをクリックします。



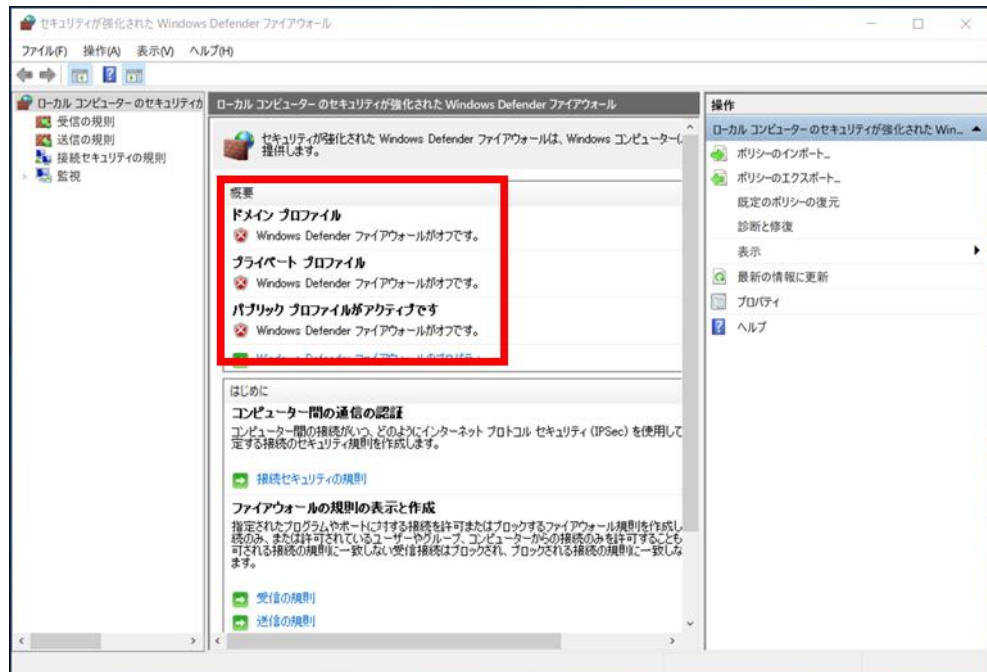
9. [プライベートプロファイル]タブをクリックし、「状態」-「ファイアウォールの状態」のプルダウンから[無効]を選択して、[適用]ボタンをクリックします。



10. [パブリックプロファイル]タブをクリックし、「状態」-「ファイアウォールの状態」のプルダウンから[無効]を選択した後、[適用]ボタン、[OK]ボタンの順にクリックします。



11. 「概要」欄に表示されているすべてのプロファイルにおいて、「Windows Defender ファイアウォールがオフです。」と表示されていることを確認し、「セキュリティが強化された Windows Defender ファイアウォール」画面を閉じます。



12. 「Windows Defender ファイアウォール」画面を閉じます。

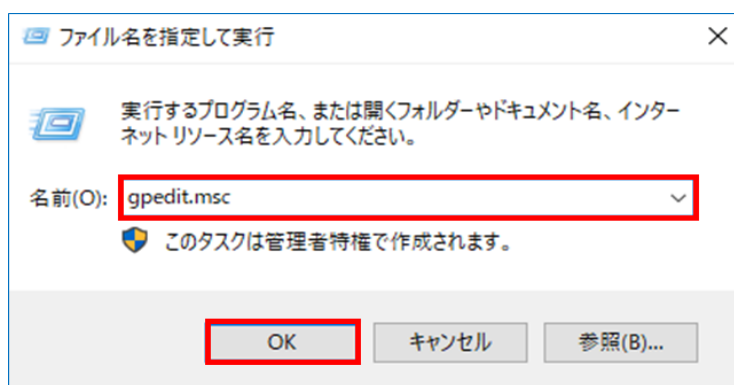


(2) ローカルポリシーの設定

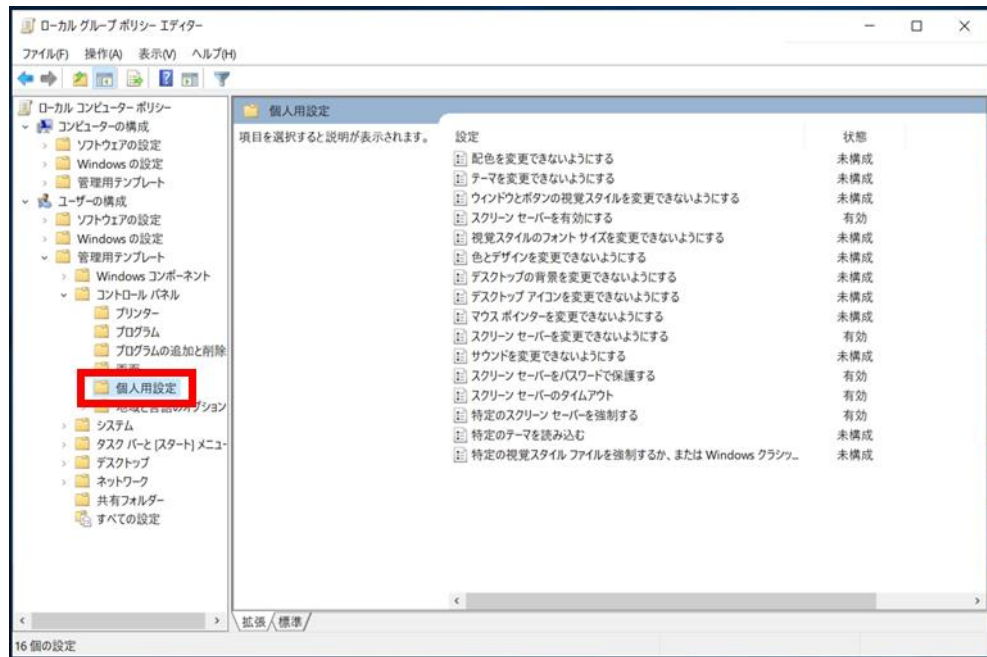
1. [スタート]アイコンを右クリックし、[ファイル名を指定して実行]をクリックします。



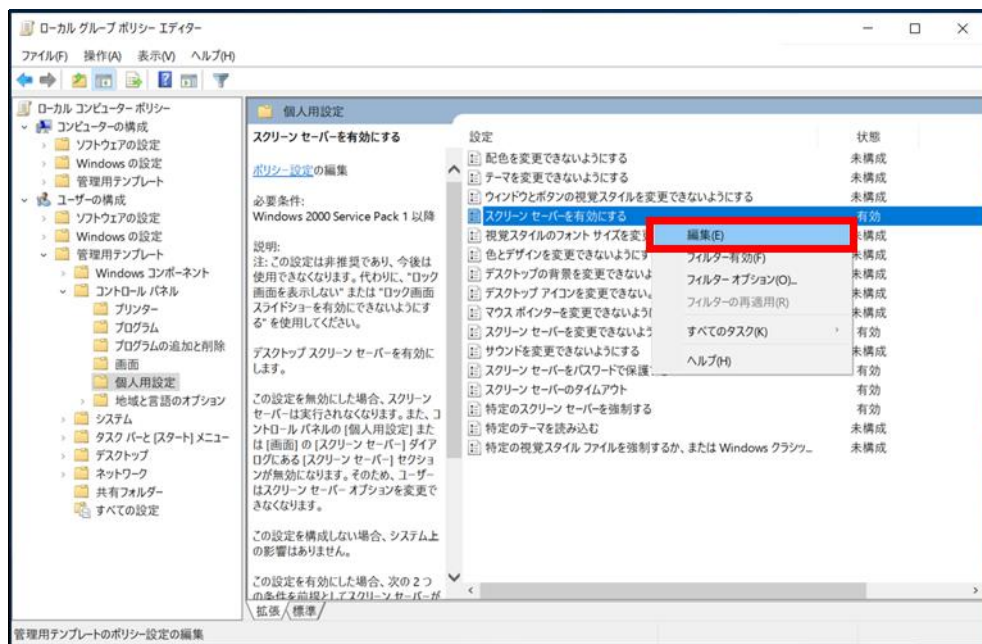
2. 「ファイル名を指定して実行」画面で、「名前」に「gpedit.msc」と入力し、[OK]ボタンをクリックします。



3. 「ローカルグループポリシーエディター」画面で、[ローカルコンピューターポリシー]-[ユーザーの構成]-[管理用テンプレート]-[コントロールパネル]-[個人用設定]をクリックします。



4. 「個人用設定」の設定列から、表 B-1 に記載されている設定項目を右クリックし、[編集]をクリックします。



⚠ 注意事項

- ・ 図は表 B-1 の No. 1 を設定する場合となります。選択する項目は表 B-1 の設定項目ごとに読み替えてください。

表 B-1 ローカルグループポリシー（個人用設定）

No.	設定項目	設定値
1	個人用設定	
	スクリーンセーバーを有効にする	有効
2	スクリーンセーバーを変更できないようにする	有効
3	スクリーンセーバーをパスワードで保護する	有効
4	スクリーンセーバーのタイムアウト	有効
5	スクリーンセーバーを起動するまでの時間	600
6	特定のスクリーンセーバーを強制する	有効
7	スクリーンセーバーの実行可能ファイル名	C:\Windows\System32\scrnsave. scr

5. 手順 4. にて選択した設定項目の編集画面が表示されるので、表 B-1 の設定値を設定した後、[適用] ボタン、[OK] ボタンの順にクリックします。

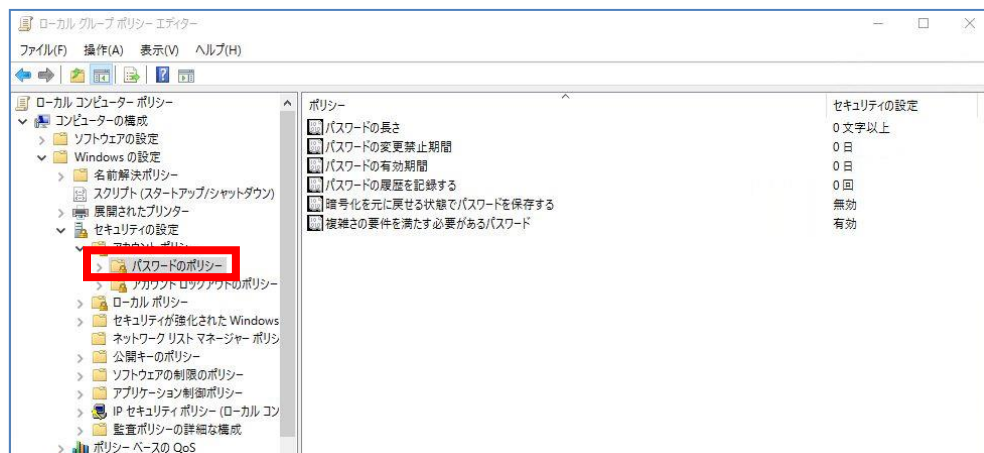


⚠ 注意事項

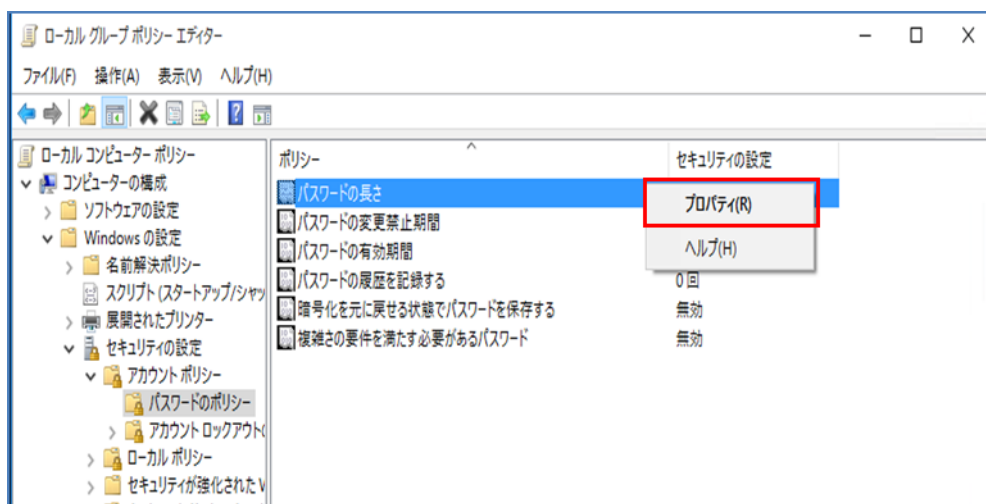
- ・ 図は表 B-1 の No. 1 を設定する場合となります。表示される編集画面および設定値は表 B-1 の設定項目ごとに読み替えてください。

6. 表 B-1 に示す設定項目の設定が完了するまで手順 4. と手順 5. を繰り返します。

7. [ローカルコンピューターポリシー]-[コンピューターの構成]-[Windows の設定]-[セキュリティの設定]-[アカウントポリシー]-[パスワードのポリシー]をクリックします。



8. ポリシー列から、表 B-2 に記載されている設定項目を右クリックし、[プロパティ]をクリックします。



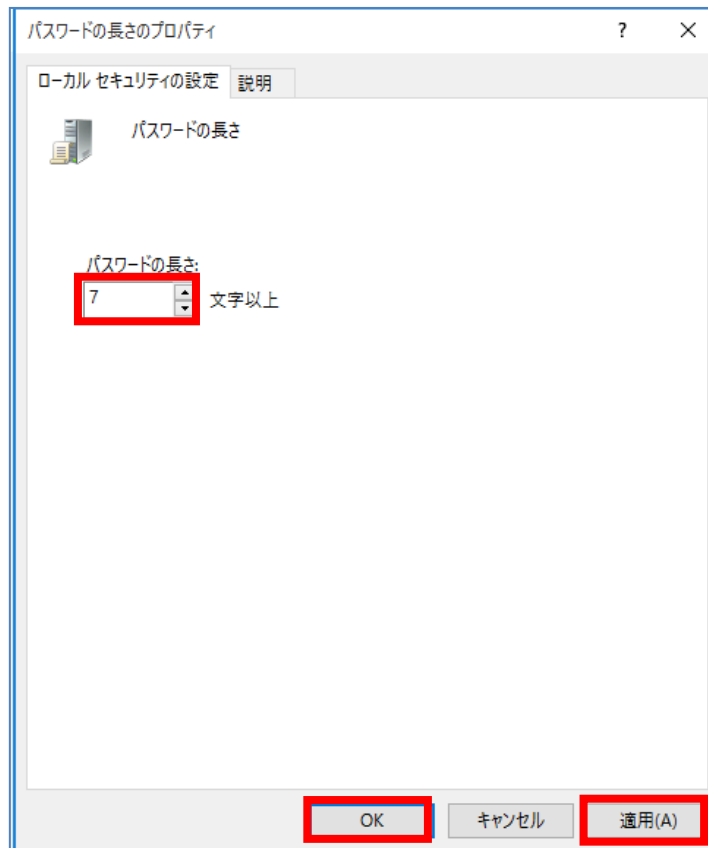
⚠ 注意事項


- 図は表 B-2 の No. 1 を設定する場合となります。選択する項目は表 B-2 の設定項目ごとに読み替えてください。

表 B-2 ローカルグループポリシー（パスワードのポリシー）

No.	設定項目	設定値
1	パスワードのポリシー	
	パスワードの長さ	7 文字以上
2	パスワードの変更禁止期間	0 日
3	パスワードの有効期間	92 日
4	パスワードの履歴を記録する	0 回
5	暗号化を元に戻せる状態でパスワードを保存する	無効
6	複雑さの要件を満たす必要があるパスワード	有効

- 手順 8. にて選択した設定項目の編集画面が表示されるので、表 B-2 の設定値を設定した後、[適用] ボタン、[OK] ボタンの順にクリックします。

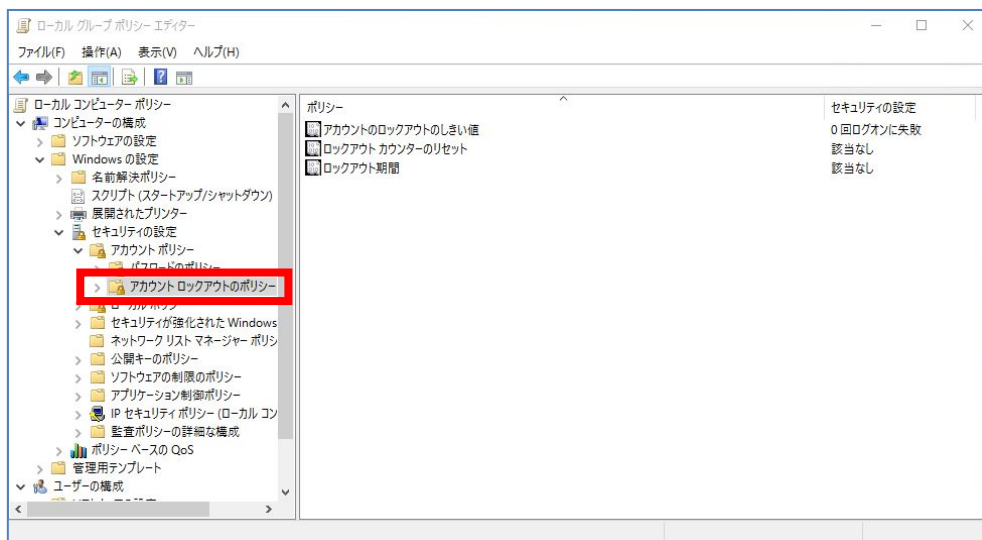


 **注意事項**

- 図は表 B-2 の No. 1 を設定する場合となります。表示される編集画面および設定値は表 B-2 の設定項目ごとに読み替えてください。

- 表 B-2 に示す設定項目の設定が完了するまで手順 8. と手順 9. を繰り返します。

11. [ローカルコンピューターポリシー]-[コンピューターの構成]-[Windows の設定]-[セキュリティの設定]-[アカウントポリシー]-[アカウントロックアウトのポリシー]をクリックします。



12. ポリシー列から、表 B-3 に記載されている設定項目を右クリックし、[プロパティ]をクリックします。

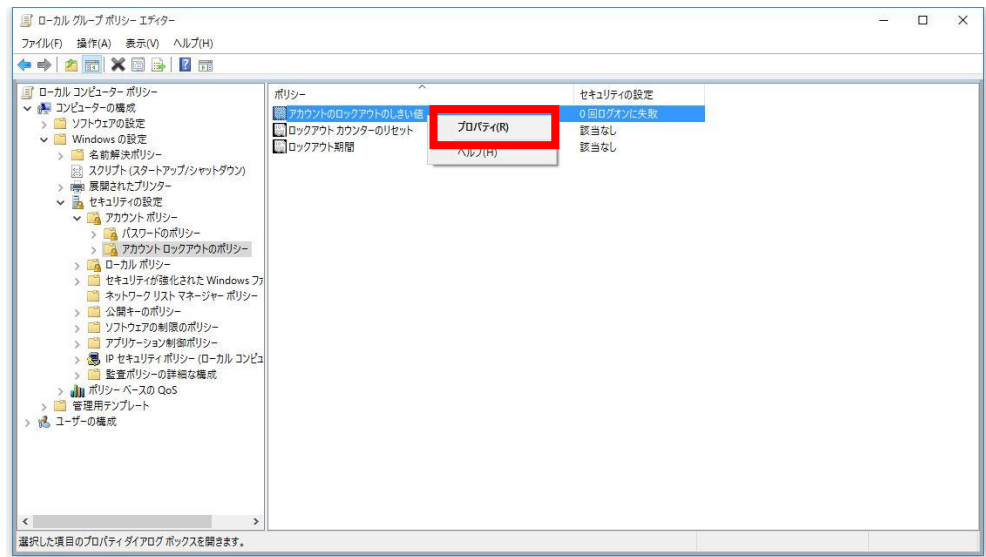


表 B-3 ローカルグループポリシー（アカウントロックアウトのポリシー）

No.	設定項目	設定値
1	アカウントのロックアウトのポリシー	
	アカウントのロックアウトのしきい値	5 回ログオンに失敗
2	ロックアウトカウンターのリセット	30 分後
3	ロックアウト期間	0

⚠ 注意事項

- ・ 図は表 B-3 の No. 1 を設定する場合となります。表示される編集画面および設定値は表 B-3 の設定項目ごとに読み替えてください。

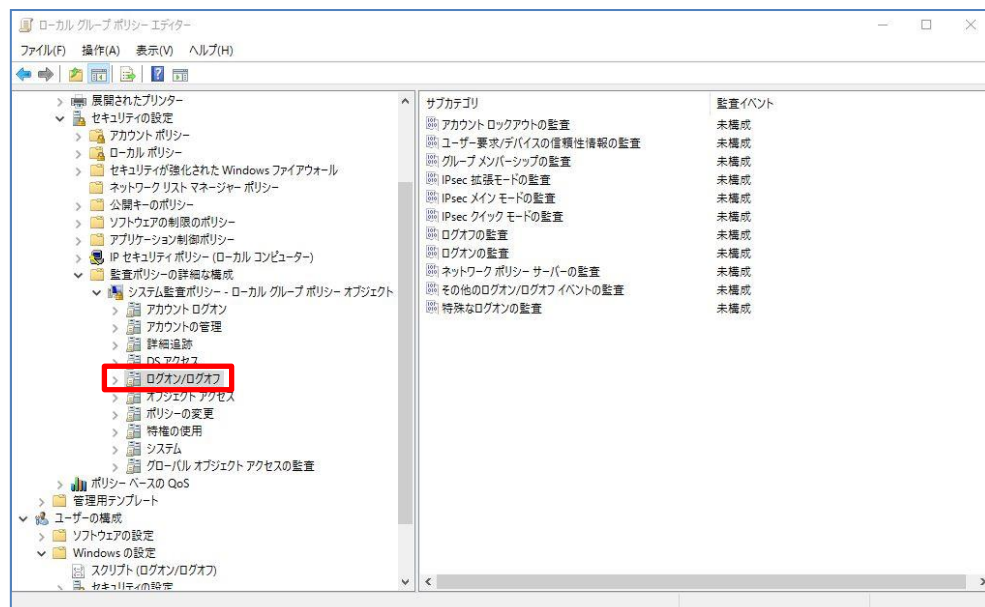
13. 手順 12. にて選択した設定項目の編集画面が表示されるので、表 B-3 の設定値を設定した後、[適用] ボタン、[OK] ボタンの順にクリックします。



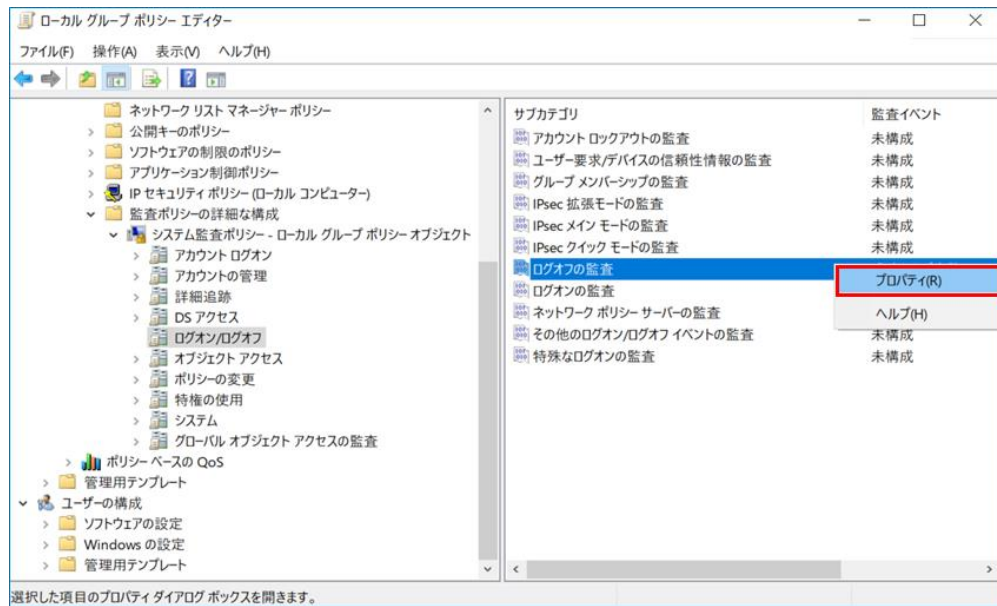
⚠ 注意事項

- ・ 図は表 B-3 の No. 1 を設定する場合となります。表示される編集画面および設定値は表 B-3 の設定項目ごとに読み替えてください。

14. 表 B-3 に示す設定項目の設定が完了するまで手順 12. と手順 13. を繰り返します。
15. 「ローカルグループポリシーエディター」画面で、[ローカル コンピューター ポリシー]-[コンピューターの構成]-[Windows の設定]-[セキュリティの設定]-[監査ポリシーの詳細な構成]-[システム監査ポリシー - ローカル グループ ポリシー オブジェクト]-[ログオン/ログオフ]をクリックします。



16. サブカテゴリ列から表 B-4 に記載されている設定項目を右クリックし[プロパティ]をクリックします。



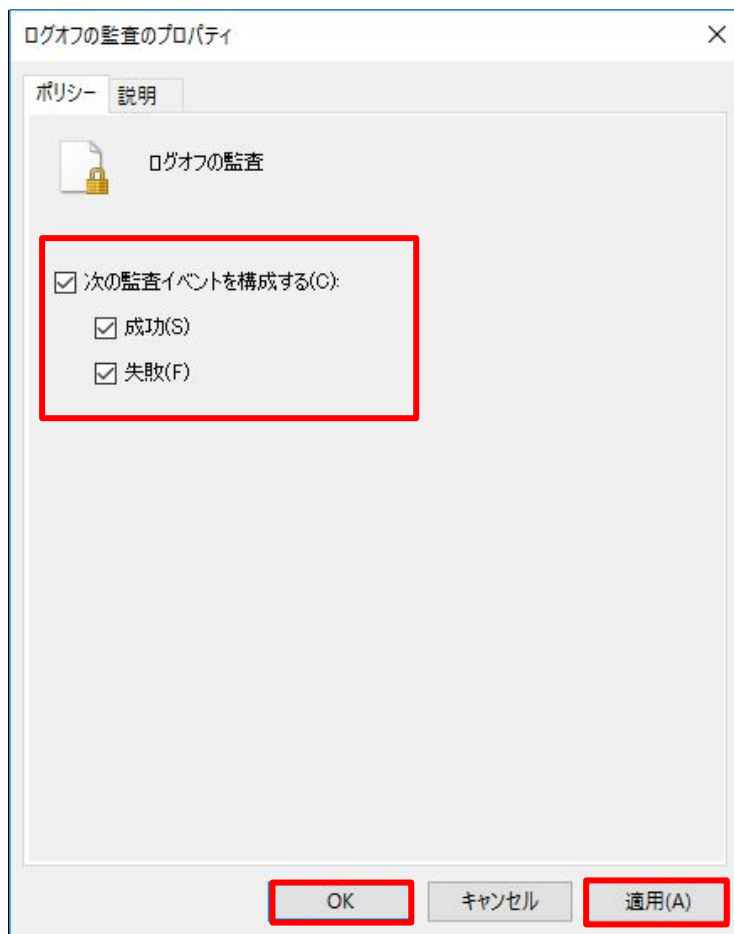
⚠ 注意事項

- ・ 図は表 B-4 の No. 1 を設定する場合となります。選択する項目は表 B-4 の設定項目ごとに読み替えてください。

表 B-4 ローカルグループポリシー（ログオン/ログオフ）

No.	設定項目	設定値
1	ログオン/ログオフ	
	ログオフの監査	成功および失敗
2	ログオンの監査	成功および失敗

17. 手順 16. にて選択した設定項目の編集画面が表示されるので、表 B-4 の設定値をチェックした後、[適用]ボタン、[OK]ボタンの順にクリックします。

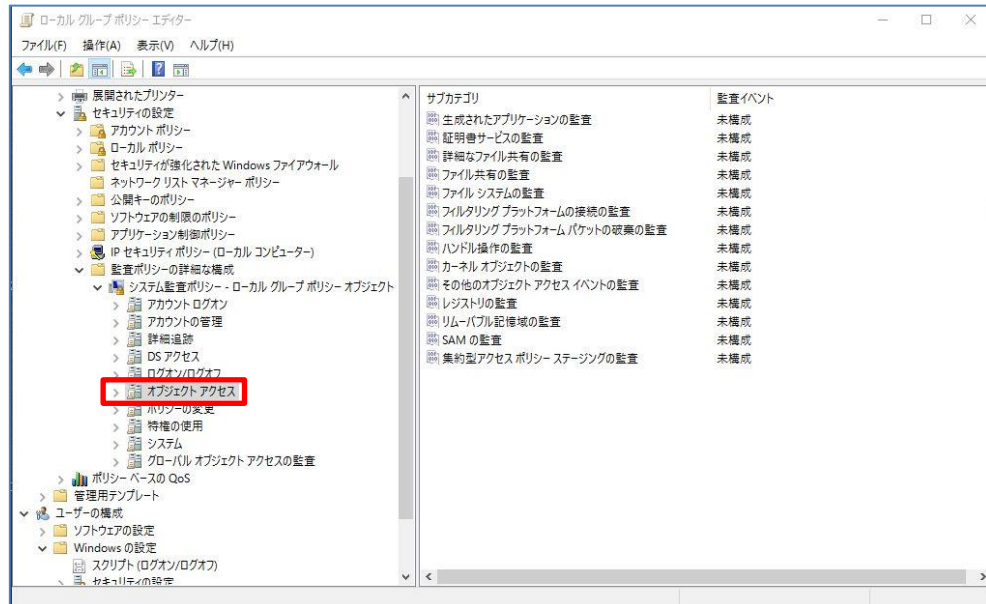


⚠ 注意事項

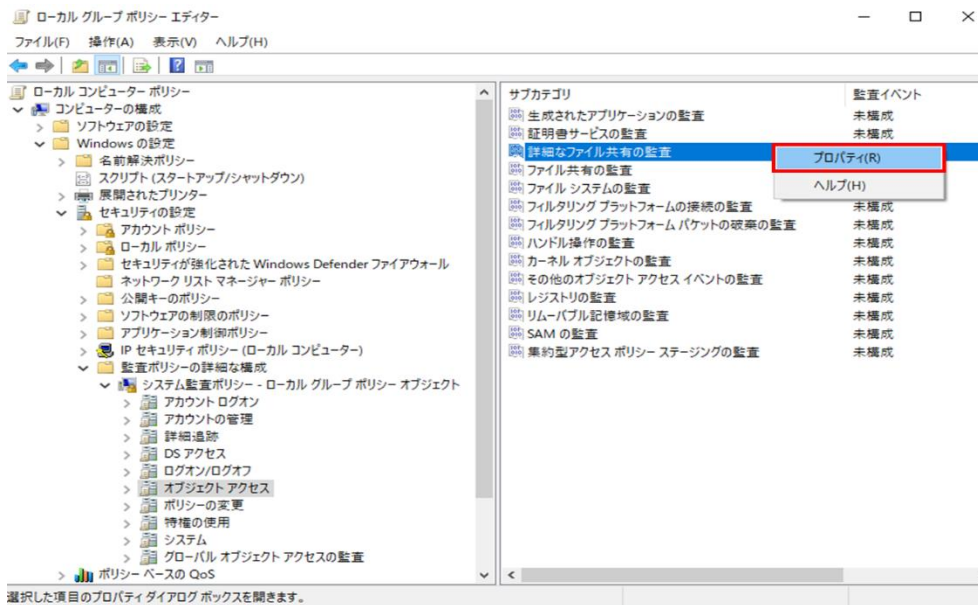
- ・ 図は表 B-4 の No. 1 を設定する場合となります。表示される編集画面および設定値は表 B-4 の設定項目ごとに読み替えてください。

18. 表 B-4 に示す設定項目の設定が完了するまで手順 16. と手順 17. を繰り返します。

19. 「ローカルグループポリシーエディター」画面で、[ローカル コンピューター ポリシー]-[コンピューターの構成]-[Windows の設定]-[セキュリティの設定]-[監査ポリシーの詳細な構成]-[システム監査ポリシー - ローカル グループ ポリシー オブジェクト]-[オブジェクトアクセス]をクリックします。



20. サブカテゴリ列から表 B-5 に記載されている設定項目を右クリックし[プロパティ]をクリックします。



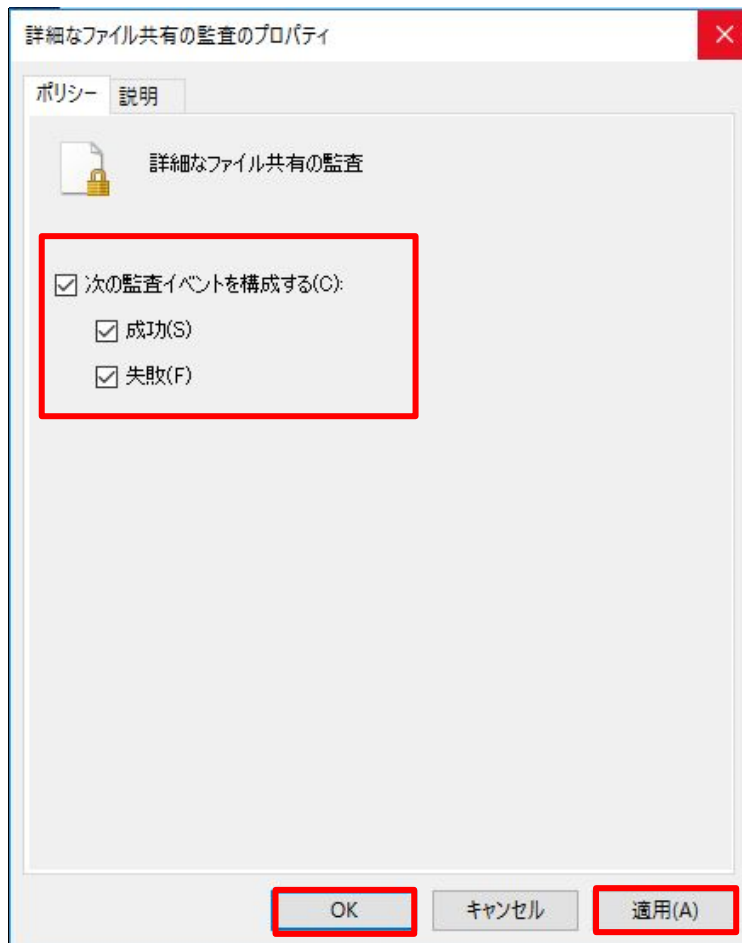
⚠ 注意事項

- ・ 図は表 B-5 の No. 1 を設定する場合となります。選択する項目は表 B-5 の設定項目ごとに読み替えてください。

表 B-5 ローカルグループポリシー（オブジェクトアクセス）

No.	設定項目	設定値
1	オブジェクトアクセス	
	詳細なファイル共有の監査	成功および失敗
2	ファイル共有の監査	成功および失敗

21. 手順 20. で選択した設定項目の編集画面が表示されるので、表 B-5 の設定値をチェックした後、[適用]ボタン、[OK]ボタンの順にクリックします。

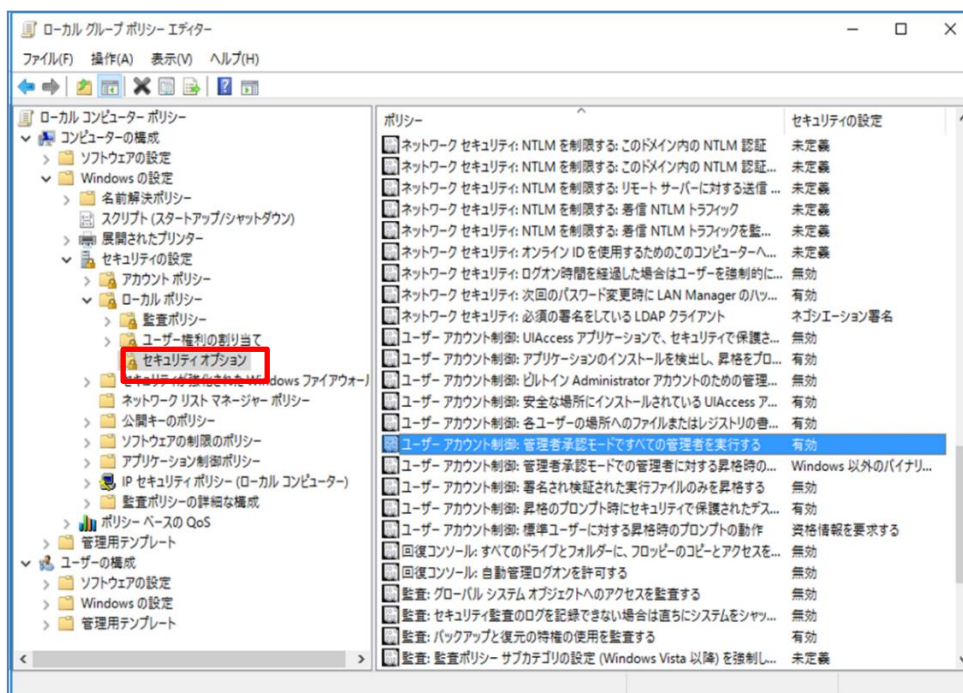


⚠ 注意事項

- ・ 図は、表 B-5 の No. 1 を設定する場合となります。表示される編集画面および設定値は表 B-5 の設定項目ごとに読み替えてください。

22. 表 B-5 に示す設定項目の設定が完了するまで手順 20. と手順 21. を繰り返します。

23. 「ローカルグループポリシーエディター」画面で、[ローカル コンピューター ポリシー]-[コンピューターの構成]-[Windows の設定]-[セキュリティの設定]-[ローカル ポリシー]-[セキュリティ オプション]をクリックします。



24. ポリシー列から表 B-6 に記載されている設定項目を右クリックし[プロパティ]をクリックします。

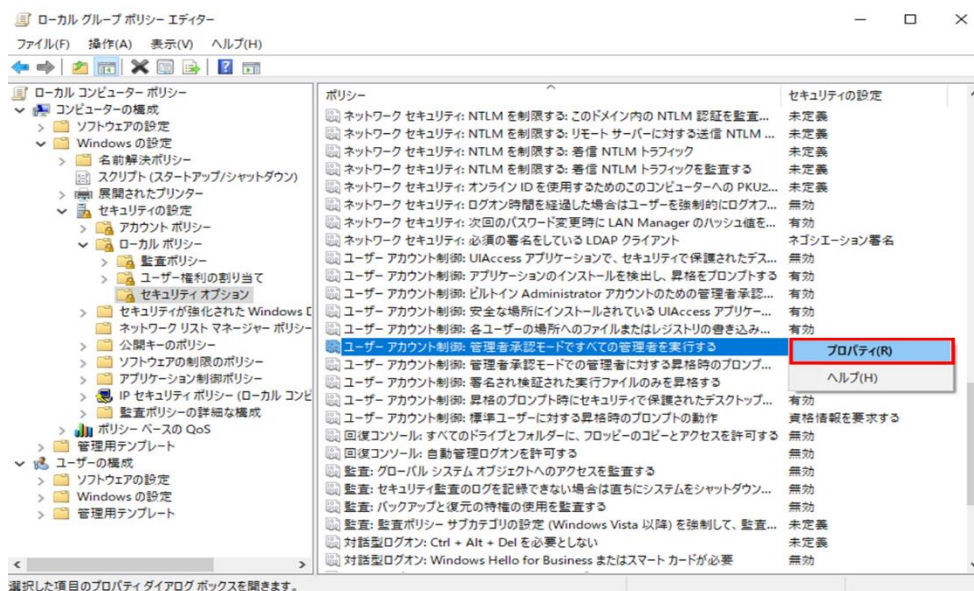
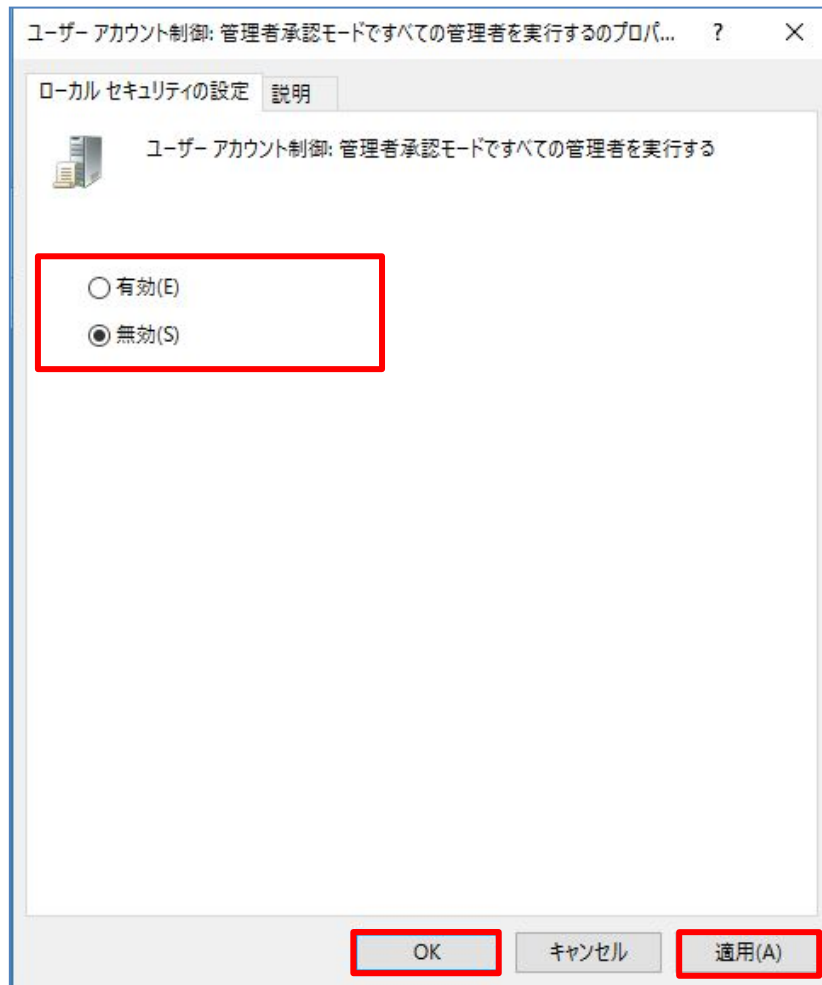


表 B-6 ローカルグループポリシー（セキュリティオプション）

No.	設定項目	設定値
1	セキュリティ オプション	
	ユーザー アカウント制御: 管理者承認モードですべての管理者を実行する	無効

25. 手順 24. にて選択した設定項目の編集画面が表示されるので、表 B-6 の設定値をチェックした後、[適用]ボタン、[OK]ボタンの順にクリックします。



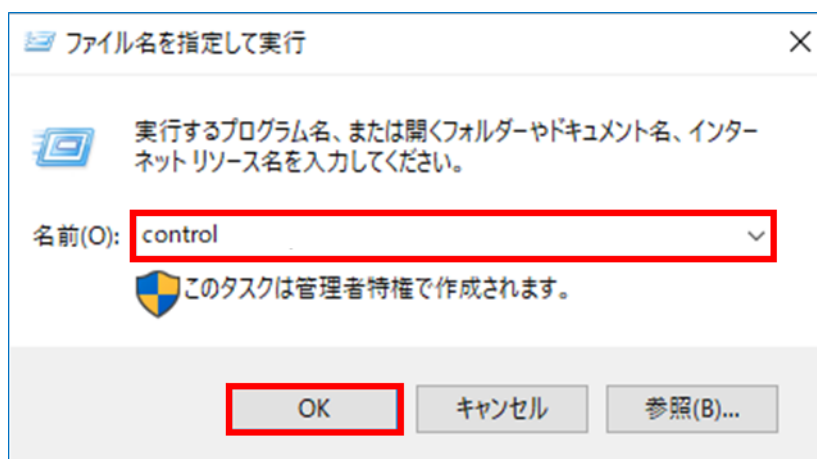
26. 「ローカルグループポリシーエディター」画面を閉じます。
27. データ連携用 PC を再起動します。

(3) フォルダオプションの設定

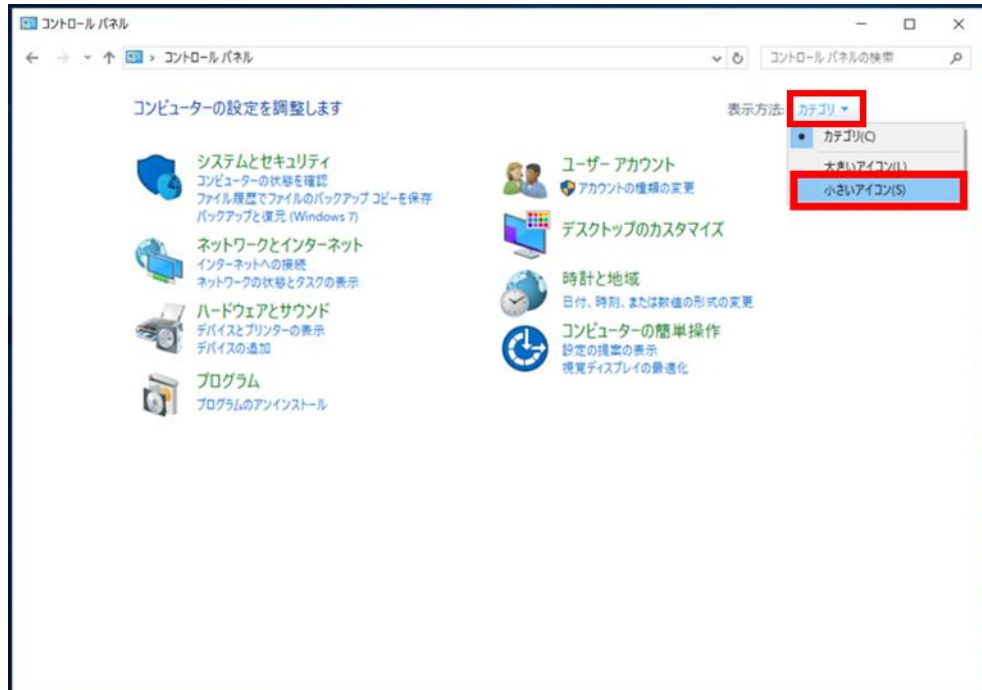
1. [スタート]アイコンを右クリックし、[ファイル名を指定して実行]をクリックします。



2. 「ファイル名を指定して実行」画面で、「名前」に「control」と入力し、[OK] ボタンをクリックします。



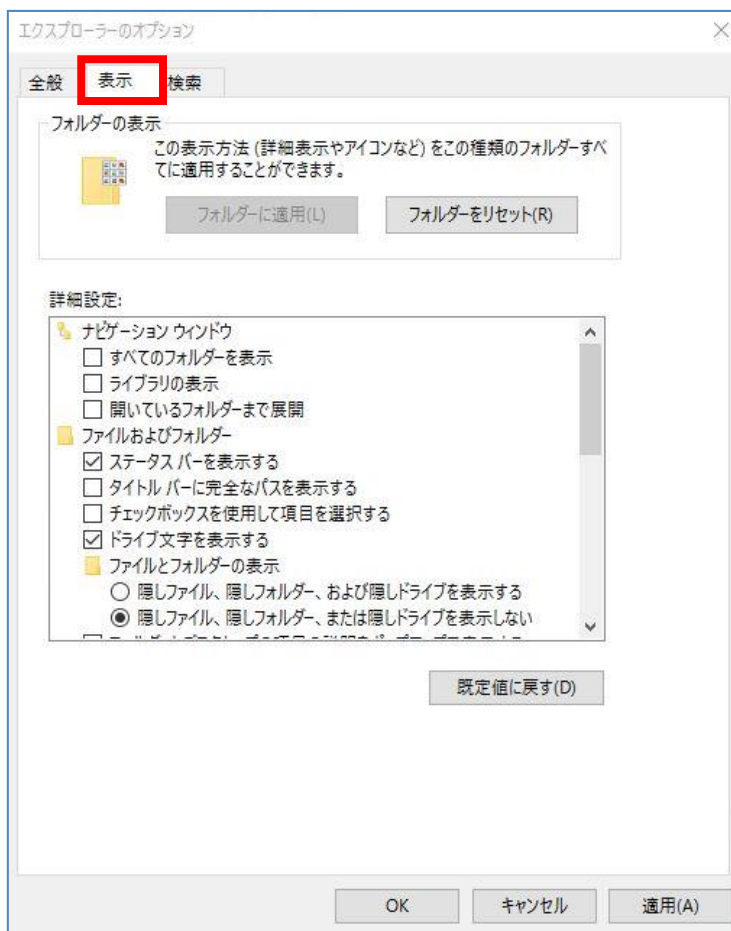
3. 「コントロールパネル」画面で、[カテゴリ▼]をクリックし、[小さいアイコン]をクリックします。



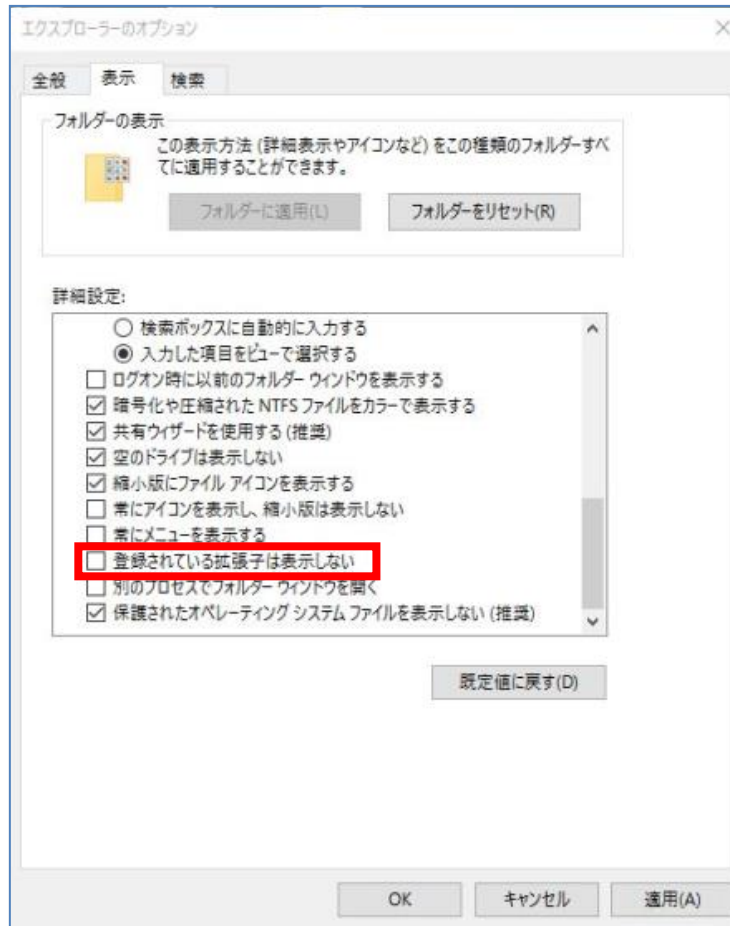
4. 「すべてのコントロールパネル項目」画面で、[エクスプローラーのオプション]をクリックします。



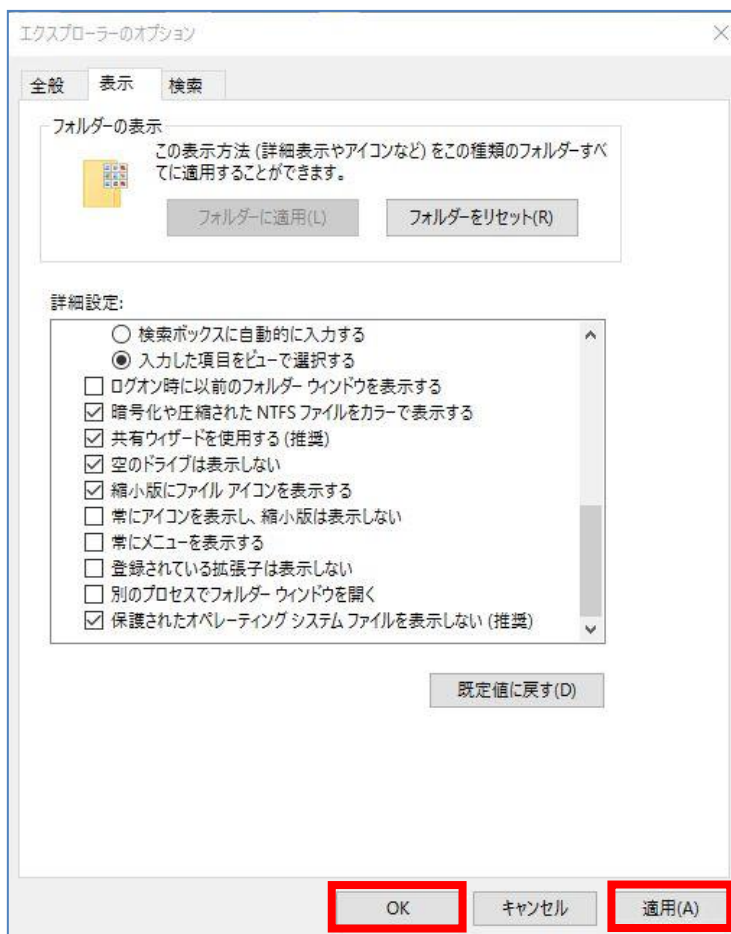
5. 「エクスプローラーのオプション」画面で、[表示]タブをクリックします。



6. 下記の画面のとおり、[登録されている拡張子は表示しない]のチェックを外します。



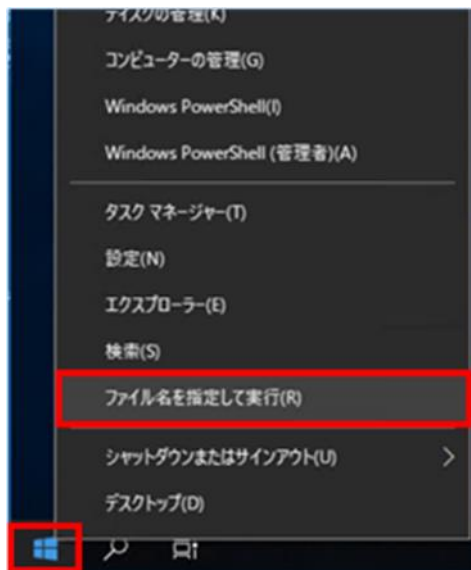
7. [適用]ボタン、[OK]ボタンの順にクリックします。



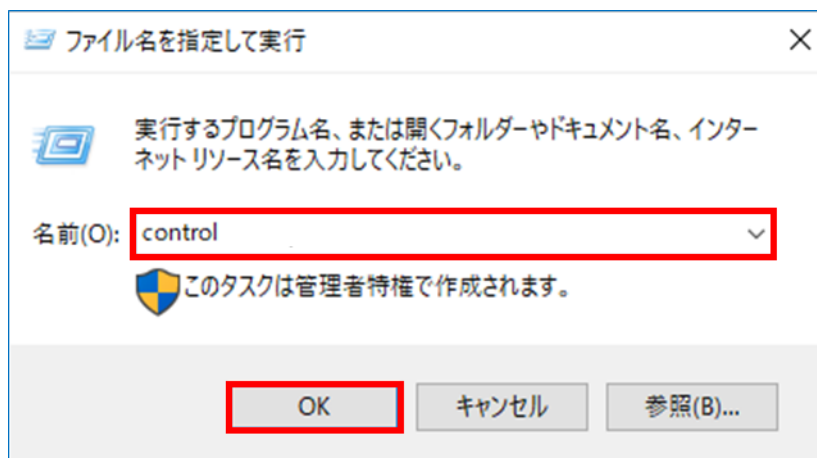
8. 「すべてのコントロールパネル項目」画面を閉じます。

(4) 電源オプションの設定

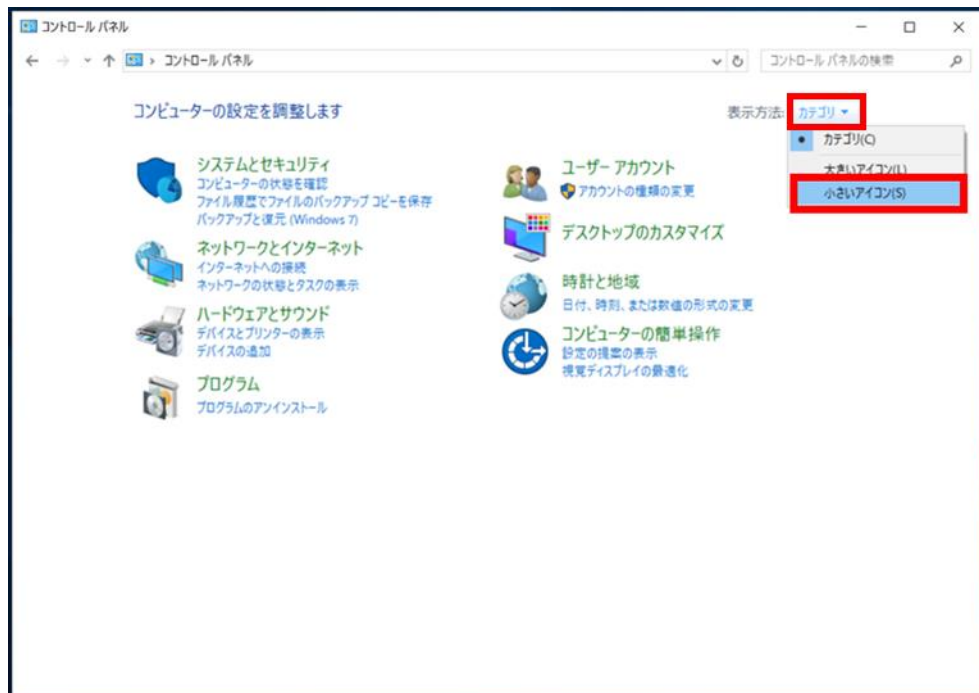
1. [スタート]アイコンを右クリックし、[ファイル名を指定して実行]をクリックします。



2. 「ファイル名を指定して実行」画面で、「名前」に「control」と入力し、[OK]ボタンをクリックします。



3. 「コントロールパネル」画面で、[カテゴリ▼]をクリックし、[小さいアイコン]をクリックします。



4. 「すべてのコントロールパネル項目」画面で、[電源オプション]をクリックします。



5. 「電源オプション」画面で、[究極のパフォーマンス]のラジオボタンにチェックを入れ、[プラン設定の変更]をクリックします。



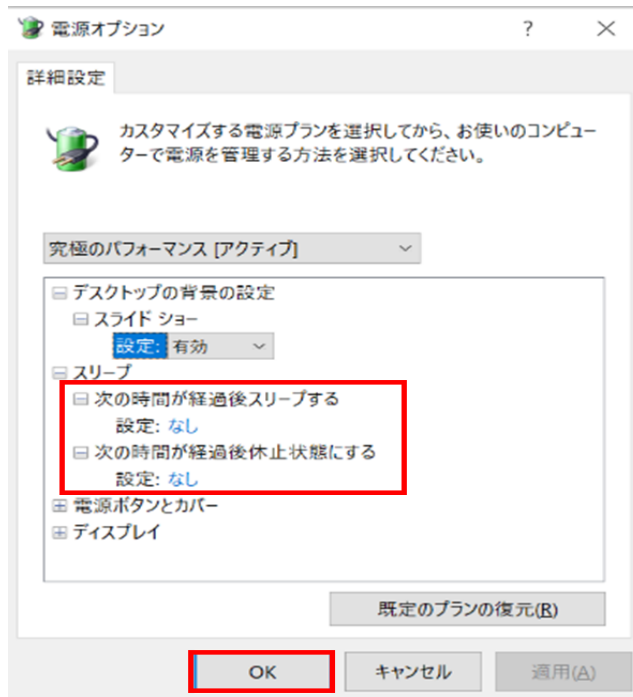
⚠ 注意事項

- ・ [究極のパフォーマンス]のラジオボタンにチェックができない場合には、「選択されたプラン」の上に表示される[現在利用可能ではない設定を変更します]をクリックし、その後設定してください。

6. 「プラン設定の編集」画面で、[詳細な電源設定の変更]をクリックします。



7. 「電源オプション」画面で、「スリープ」-「次の時間が経過後スリープする」、「スリープ」-「次の時間が経過後休止状態にする」の「設定」が「なし」となっていることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。



8. 「プラン設定の編集」画面を閉じます。
9. 「電源オプション」画面を閉じます。

(5) セキュリティパッチの適用

データ連携用 PC に、セキュリティパッチおよび重要な更新プログラムを適用します。
適用するセキュリティパッチは「付録.C セキュリティパッチ一覧」を参照してください。

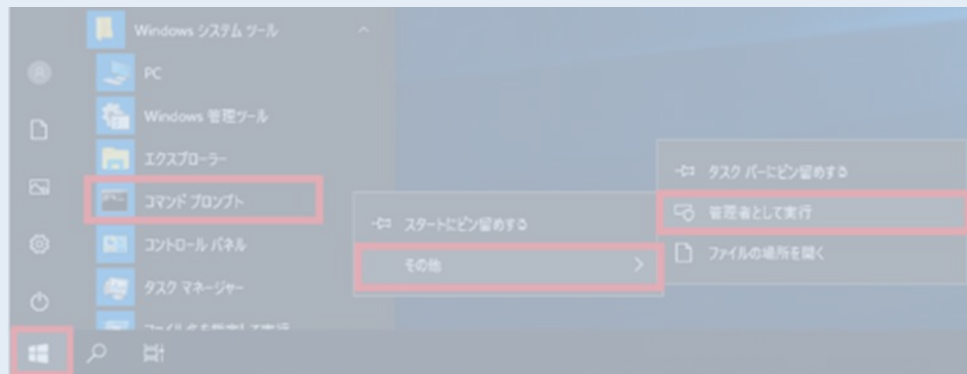
1. 適用するセキュリティパッチを「資材格納フォルダ」に格納します。

注 「資材格納フォルダ」は任意のフォルダとします。



今回の作業範囲外

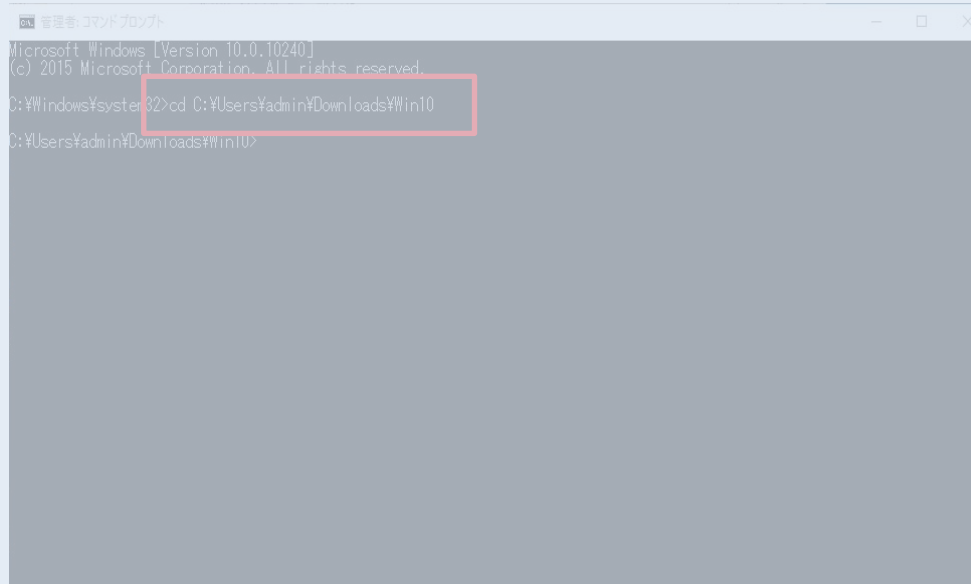
2. [スタート]メニューを右クリックし、「[コマンドプロンプト]」を右クリックし、「[その他]」>「管理者として実行」を選択します。



3. 「コマンドプロンプト」画面で、次のコマンドを入力して、Enter キーを押下します。

cd△” 資材格納フォルダ”

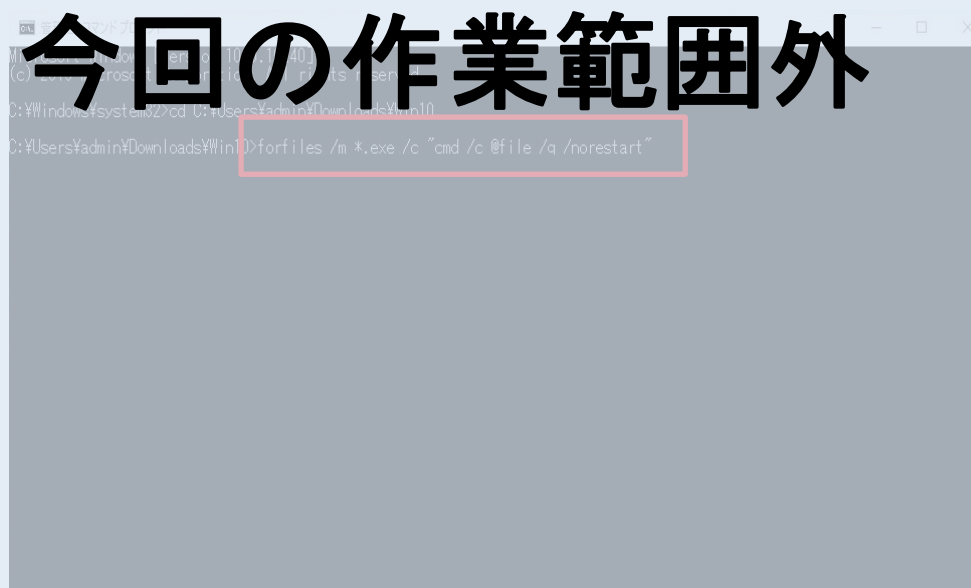
注 △は半角スペースを表します。



A screenshot of the Windows Command Prompt window. The title bar reads "管理者: コマンドプロンプト". The window content shows the following text: "Microsoft Windows [Version 10.0.10240] (c) 2015 Microsoft Corporation. All rights reserved. C:\Windows\system32>cd C:\Users\admin\Downloads\Win10 C:\Users\admin\Downloads\Win10>". A red rectangular box highlights the command "cd C:\Users\admin\Downloads\Win10".

4. 次のコマンドをコピーし、コマンドプロンプトに張り付けて、Enter キーを押下します。

forfiles /m *.exe /c "cmd /c @file /q /norestart"

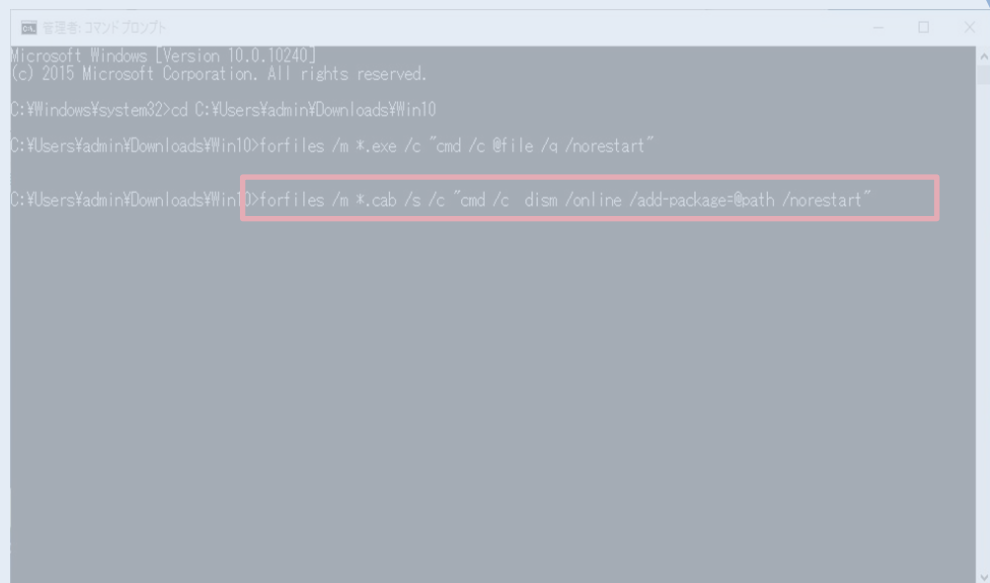


A screenshot of the Windows Command Prompt window. The title bar reads "管理者: コマンドプロンプト". The window content shows the following text: "Microsoft Windows [Version 10.0.10240] (c) 2015 Microsoft Corporation. All rights reserved. C:\Windows\system32>cd C:\Users\admin\Downloads\Win10 C:\Users\admin\Downloads\Win10>forfiles /m *.exe /c "cmd /c @file /q /norestart" ". A red rectangular box highlights the command "forfiles /m *.exe /c "cmd /c @file /q /norestart" ".

今回の作業範囲外

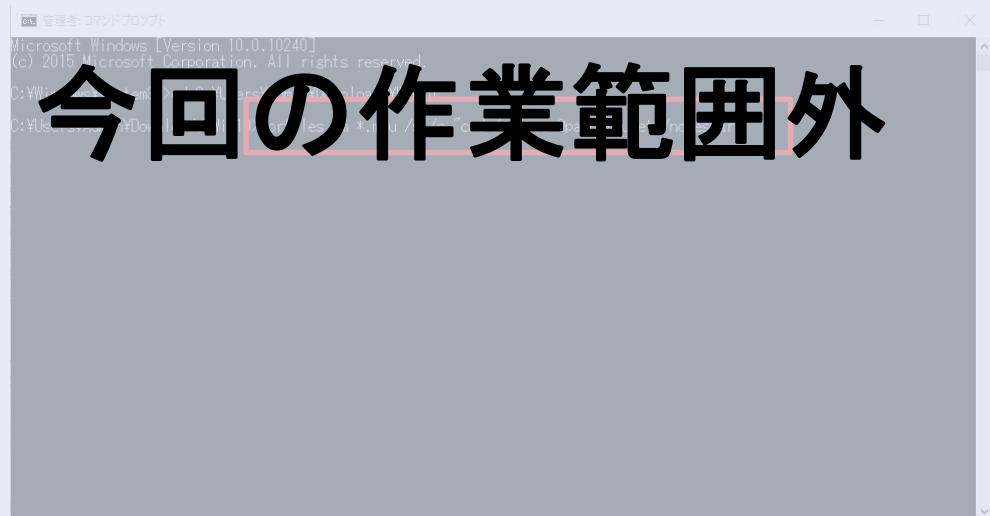
5. 次のコマンドをコピーし、コマンドプロンプトに張り付けて、Enter キーを押下します。

```
forfiles /m *.cab /s /c "cmd /c dism /online /add-package=@path /norestart"
```



6. 次のコマンドをコピーし、コマンドプロンプトに張り付けて、Enter キーを押下します。

```
forfiles /m *.msu /s /c "cmd /c wusa @path /quiet /norestart"
```

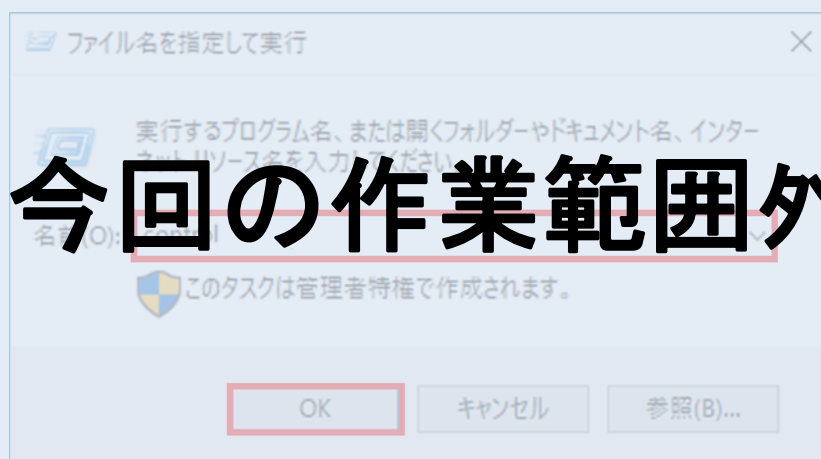


7. データ連携用 PC を再起動します。
8. データ連携用 PC 起動後、ログインします。

9. [スタート]アイコンを右クリックし、[ファイル名を指定して実行]をクリックします。



10. 「ファイル名を指定して実行」画面で、「名前」に「control」と入力し、[OK]ボタンをクリックします。



11. 「コントロールパネル」画面で、[プログラム]をクリックします。



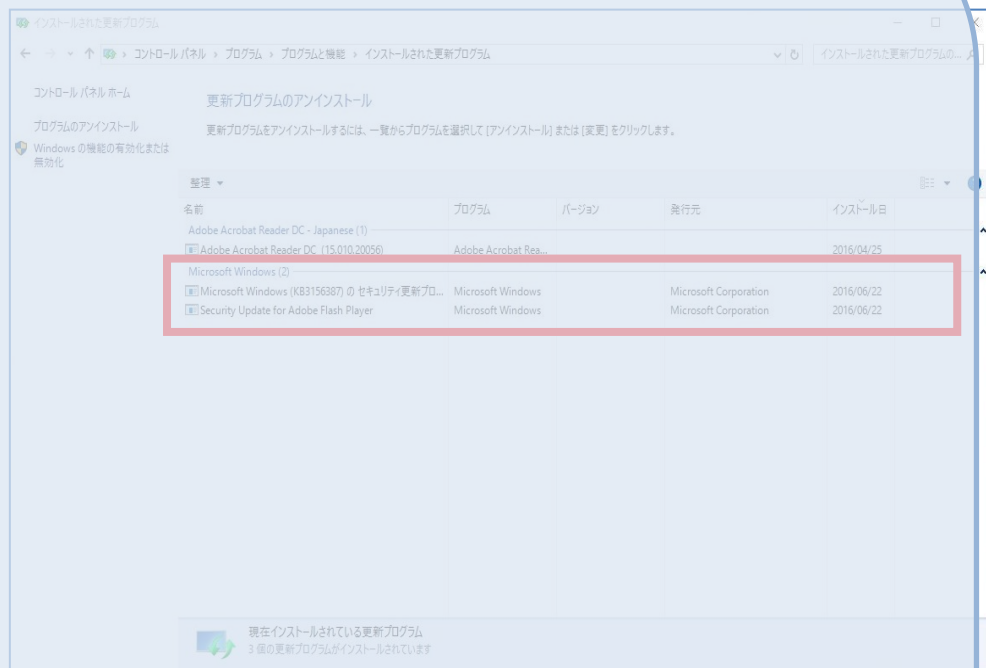
⚠ 注意事項

- ・「表示方法：小さいアイコン▼」となっている場合、[小さいアイコン▼]をクリックし、[カテゴリ]をクリックします。

12. 「プログラムの機能」画面で「インストールされた更新プログラムを表示」をクリックします。



13. 「インストールされた更新プログラム」画面で、「インストール日」がセキュリティパッチ適用作業を実施した日となっている更新プログラムの「名前」欄に、手順 2. ～手順 8. にて適用したセキュリティパッチがすべて表示されていることを確認します。



⚠ 注意事項

・手順 1. にて適用できないセキュリティパッチが重要な更新プログラム
 今回の作業範囲外

14. 「インストールされた更新プログラム」画面を閉じます。

【このページは白紙です】

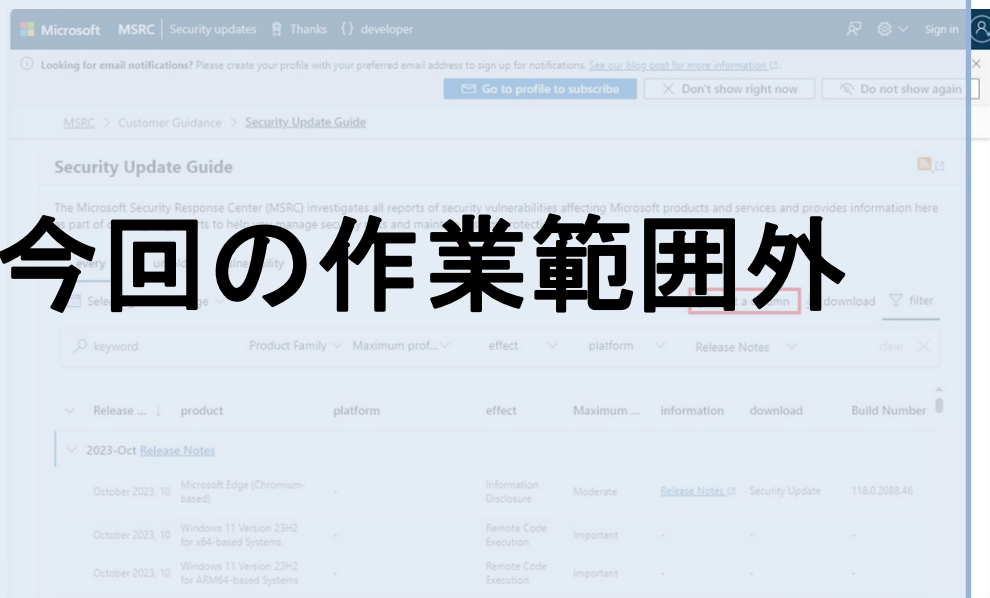
付録.C セキュリティパッチ一覧

セキュリティパッチは設置団体のセキュリティポリシーの基準に従って適用してください。LTSC 2019 のセキュリティパッチは、動作確認済みの最新セキュリティパッチ一覧を国民健康保険中央会ホームページに掲載していますので参照してください。それ以外のエディション・バージョンのセキュリティパッチは、Microsoft の公式サイトで確認していただき、ダウンロードする必要があります。

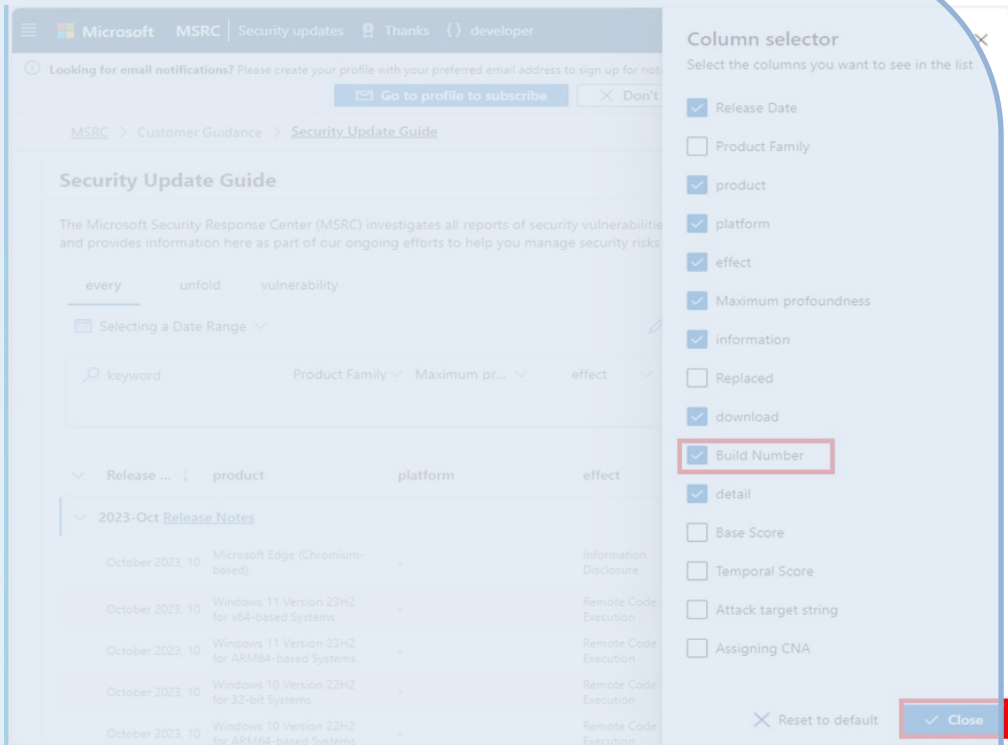
(参考手順) セキュリティパッチのダウンロード

参考として Windows Update Catalog (<https://www.catalog.update.microsoft.com>) から更新プログラムをダウンロードする参考手順を説明します。

1. インターネットに接続可能な端末にて、Web ブラウザーを起動し、Microsoft サイト「<https://msrc.microsoft.com/update-guide/ja-jp>」にアクセスします。
2. [Edit a column] をクリックします。



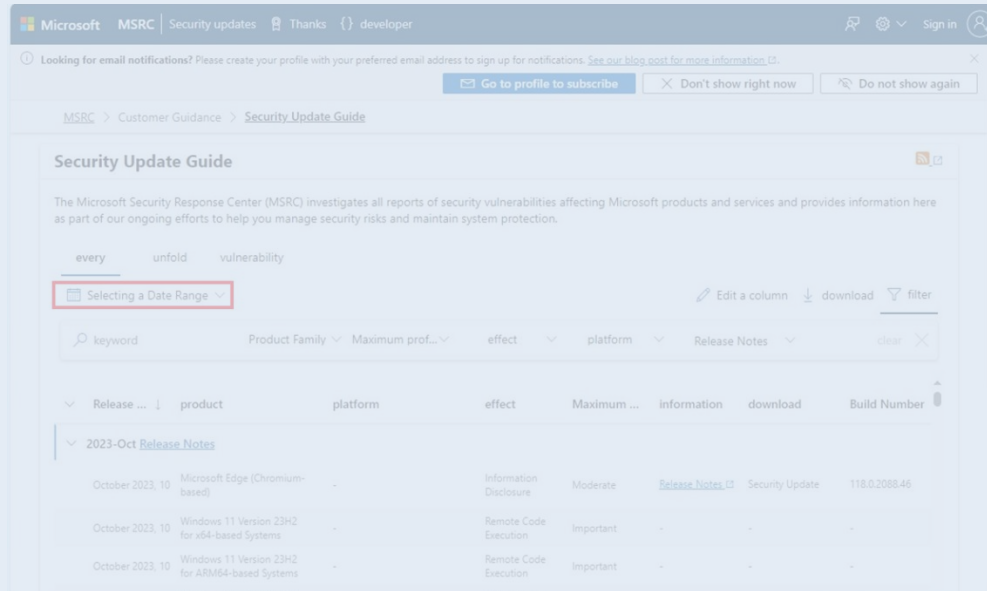
3. 「Build Number」にチェックが入っていることを確認し、[Close]をクリックします。



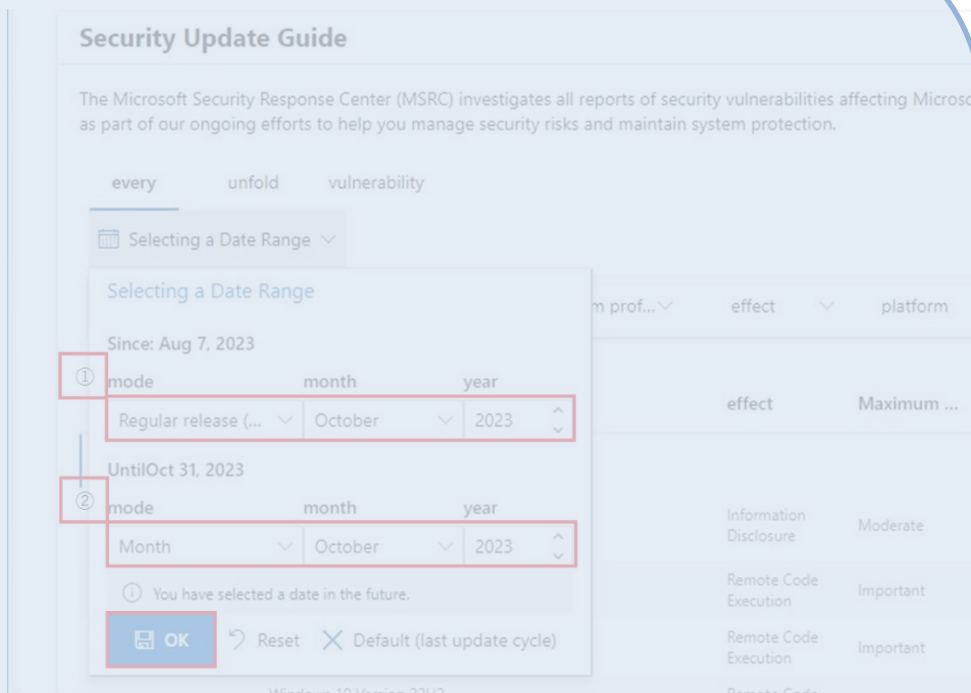
⚠️ 注意事項

・「Build Number」にチェックが入っていることを確認し、[Close]をクリックします。
今回の作業範囲外

4. [Selecting a Date Range]をクリックします。



5. 「mode」、「month」および「year」のプルダウンから表 C-1 のとおり、設定後 [OK] をクリックします。

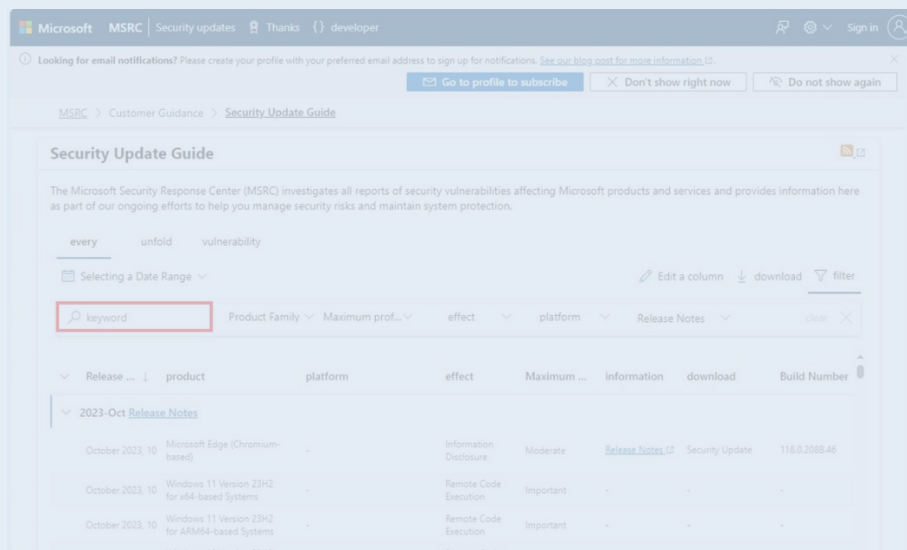


図中の丸付き数字は、次の表の No. と対応しています。

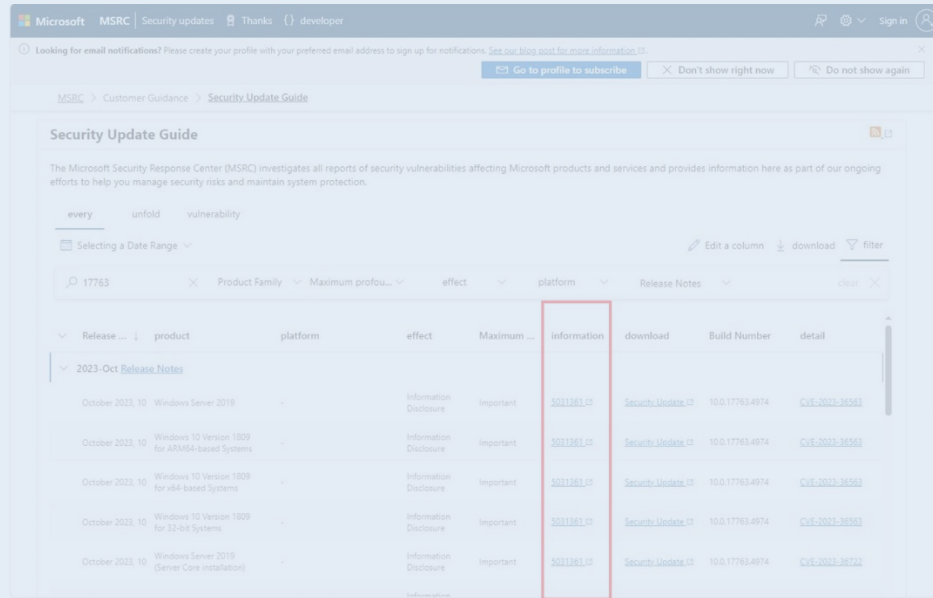
表 C-1 日付の範囲の設定

No.	mode	month	year
1	Regular release (...) (second Tuesday of the month in US time)	パッチの適用月	パッチの適用年
2	Month	パッチの適用月	パッチの適用年

6. [keyword] をクリックし、対象の OS のバージョンの「製品名」または「ビルド番号」を入力します。



7. 「Information」 から対象のセキュリティパッチ KB 番号をクリックし、Microsoft の製品情報ページにアクセスします。



Microsoft の製品情報ページへ画面が遷移します。

8. 画面をスクロールし、リリースチャネル「Microsoft Update カタログ」から次の手順内のリンク [Microsoft Update Catalog] をクリックし、セキュリティパッチのダウンロードサイトへアクセスします。

今回の作業範囲外

2021年9月14日—KB5005568 (OS ビルド 17763.2183) プレビュー	Windows Update および Microsoft Update	はい	ありません。この更新プログラムは、Windows Update から自動的にダウンロードおよびインストールされます。
2021年8月26日—KB5005102 (OS ビルド 17763.2145) プレビュー	ビジネス向け更新プログラム	はい	ありません。この更新プログラムは、構成されたポリシーに従って、Windows Update から自動的にダウンロードおよびインストールされます。
2021年8月10日—KB5005030 (OS ビルド 17763.2114)	Microsoft Update カタログ	はい	この更新プログラムのスタンドアロン パッケージを取得するには、 Microsoft Update Catalog Web サイトにアクセスします。
2021年7月27日—KB5004308 (OS ビルド 17763.2091) アウトオブバンド	Windows Server Update Services (WSUS)	はい	次のように [製品と分類] を構成すると、この更新プログラムは WSUS と自動的に同期します。 製品: Windows 10 分類: セキュリティ更新プログラム
2021年7月13日—KB5004244 (OS ビルド 17763.2061)			
2021年7月6日—			

「Microsoft Update Catalog」へ画面が遷移します。

9. 対象のセキュリティパッチの行の[ダウンロード]をクリックします。



Microsoft Update カタログ

検索

KB5031361

更新プログラム 1 - 4/4 (1/1 ページ)

タイトル	製品	分類	最終更新日時	バージョン	サイズ	ダウンロード
2023-10 Cumulative Update for Windows 10 Version 19H2 for x86-based Systems (KB5031361)	Windows 10 LTSB	Security Updates	2023/10/10	N/A	656.5 MB	ダウンロード
2023-10 Cumulative Update for Windows Server 2019 for x64-based Systems (KB5031361)	Windows Server 2019	Security Updates	2023/10/10	N/A	616.3 MB	ダウンロード
2023-10 Cumulative Update for Windows 10 Version 19H2 for x64-based Systems (KB5031361)	Windows 10 LTSB	Security Updates	2023/10/10	N/A	342.3 MB	ダウンロード
2023-10 Cumulative Update for Windows 10 Version 19H2 for x64-based Systems (KB5031361)	Windows 10 LTSB	Security Updates	2023/10/10	N/A	616.3 MB	ダウンロード

© 2023 Microsoft Corporation. All Rights Reserved. | プライバシー | 使用条件 | ヘルプ |

画面の表示は手順 7. でクリックしたセキュリティパッチ KB 番号によって異なります。

今回の作業範囲外

【このページは白紙です】

付録.D データ連携用 PC アプリケーションのフォルダ構成

データ連携用 PC のアプリケーションのフォルダの構成について記載します。

表 D-1 データ連携用 PC 用アプリケーションのフォルダ構成

ルート	フォルダ			
D:¥	S_Kokuho¥	SZ¥	Tool¥	
				bat¥
				conf¥
				lib¥
				tmp¥
				truststore¥
				log¥
				data¥
		Renkei¥		
			Conf¥	
			Send¥	done¥
				err¥
			Receive¥	done¥
	err¥			
	Log¥		done¥	
		err¥		
	TOOL¥	Batch¥		
			bat¥	
			log¥	
	S_Kokuho_T est¥	SZ¥	Tool¥	
				bat¥
				conf¥
				lib¥
tmp¥				
truststore¥				
log¥				
data¥				

ルート	フォルダ		
		Renkei¥	
		Conf¥	
		Send¥	
			done¥
			err¥
		Receive¥	
			done¥
			err¥
		Log¥	
			done¥
			err¥

付録.E ファイル自動連携するためのタスクスケジューラの設定

ファイル自動連携をするためのタスクスケジューラの設定値を表 E-1 に示します。

表 E-1 ファイル自動連携するためのタスクスケジューラの設定値

No.	画面	項目	説明	設定値
1	タスクスケジューラ	次の期間に開始したタスクの状態	タスクの状態を保管する期間を設定します。	過去 7 日以内
2	タスクの作成 (全般タブ)	名前	このタスクに付ける名前を設定します。	次の値を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> 本番環境へのファイル連携 (送信) 処理の場合の設定値: ファイル連携 (送信) (本番環境) 本番環境からのファイル連携 (受信) 処理の場合の設定値: ファイル連携 (受信) (本番環境) テスト環境へのファイル連携 (送信) 処理の場合の設定値: ファイル連携 (送信) (テスト環境) テスト環境からのファイル連携 (受信) 処理の場合の設定値: ファイル連携 (受信) (テスト環境)
3	新しいトリガー	タスクの開始	ログオン時、スタートアップ時などを設定します。	スケジュールに従う
4		設定	実行するタイミングを設定します。	毎日
5		開始	このタスクを繰り返し起動するスケジュールを始める年月日、時分秒を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> 実行時間帯を 24 時間とする場合 タスクの使用を開始する年月日、時刻を設定します。 実行時間帯からミドルウェアが停止する時間帯を除外する場合 タスクの使用を開始する年月日を設定し、時刻にはタスクの開始時刻を設定します。
6		間隔	実行間隔を設定します。	1 日
7		繰り返し間隔 チェックボックス	繰り返し間隔設定する場合、チェックします。	チェックする
8		繰り返し間隔	繰り返し間隔を設定します。	10 分間

No.	画面	項目	説明	設定値
9		継続時間	このタスクの継続時間を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実行時間帯を 24 時間とする場合 1 日間を設定します。 ・ 実行時間帯からミドルウェアが停止する時間帯を除外する場合 タスクの開始時刻から停止時刻までの時間を分単位で設定します。 (例) 3:00~24:00 まで実行する場合 3:00~24:00=21 時間=1260 分 1260 を入力します。
10		有効チェックボックス	このタスクを有効にする場合チェックします。	チェックする
11	タスクの作成 (設定タブ)	タスクを停止するまでの時間	タスクを停止するまでの時間を設定します。	次の値を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本番環境へのファイル連携 (受信) 処理の場合の設定値: 10 分間 ・ テスト環境へのファイル連携 (受信) 処理の場合の設定値: 10 分間
12	新しい操作	操作	このタスクで実施する操作を設定します。	プログラムの開始

付録.F タスクの有効化／無効化手順

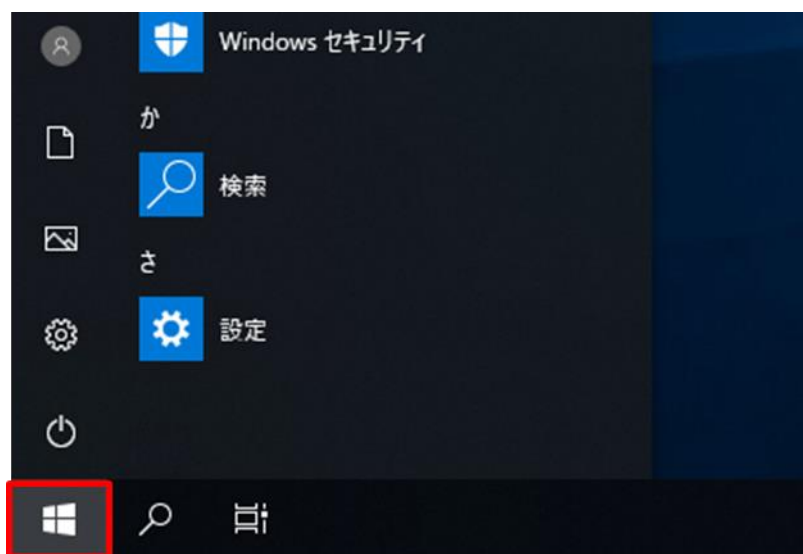
付録.F.1 タスクの有効化手順

⚠ 注意事項

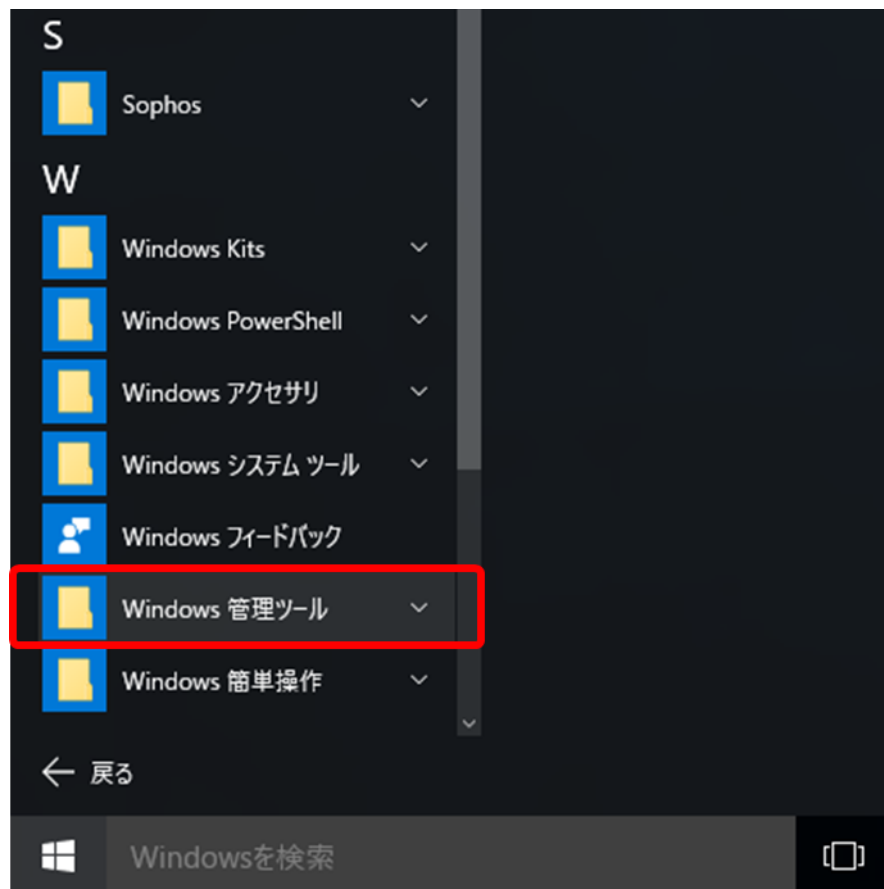
- ・ 本手順は LTSC 2019 の手順例です。バージョンによって手順に差異がある場合がありますので、バージョンに合わせて設定してください。

次に示す手順で操作します。

1. [スタート]アイコンをクリックします。



2. [Windows 管理ツール]をクリックします。

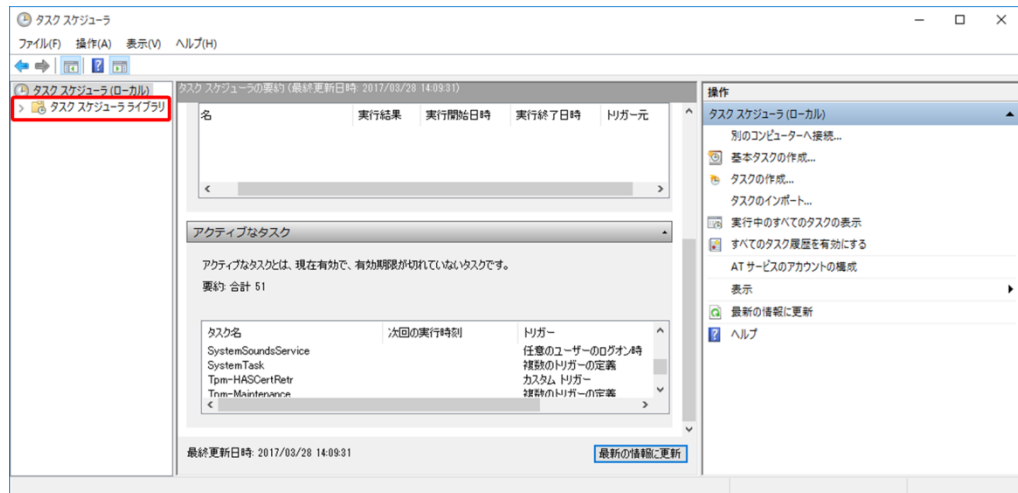


3. [タスク スケジューラ]をクリックします。

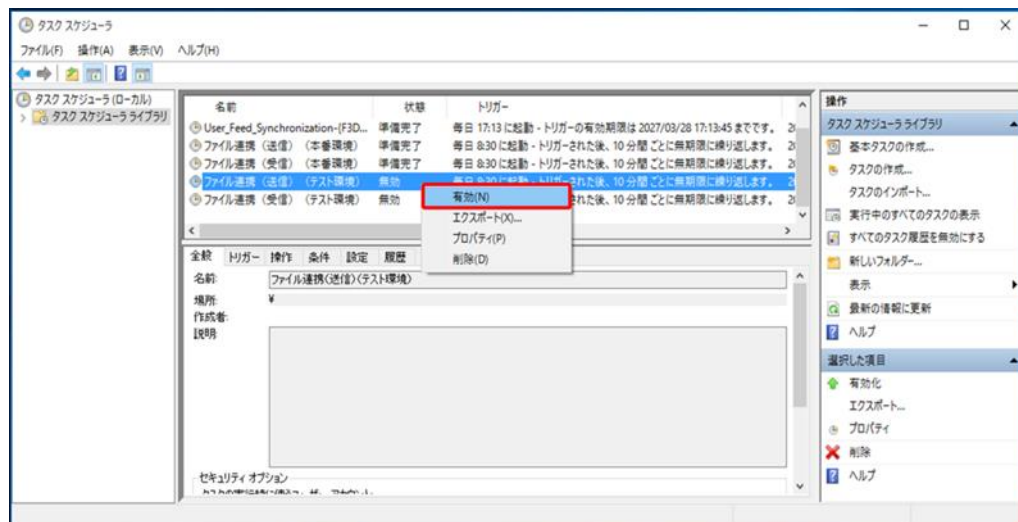


「タスク スケジューラ」画面が表示されます。

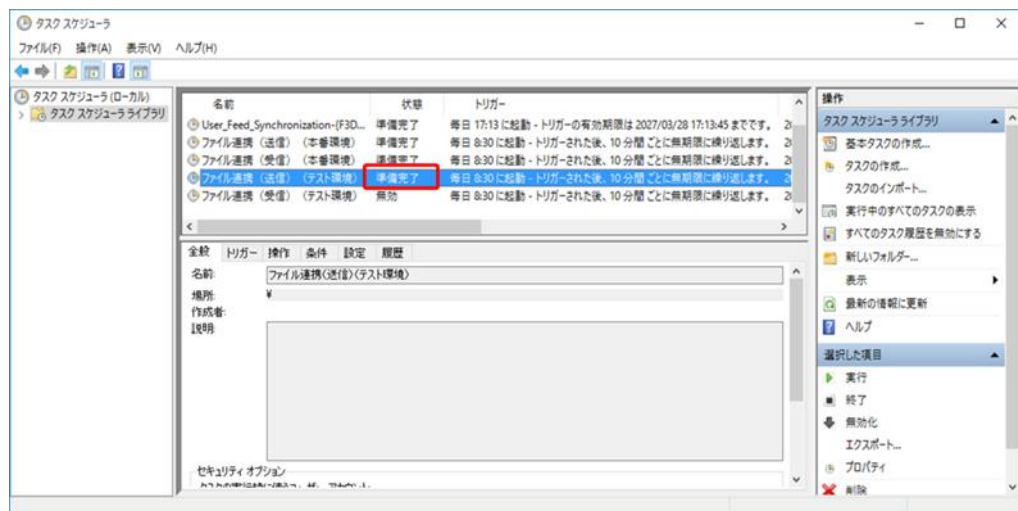
4. [タスク スケジューラライブラリ]をクリックします。



5. 対象となるタスクを選択して右クリックし、メニューから[有効]を選択します。



6. 変更したタスクの状態が「準備完了」に変更されたことを確認します。

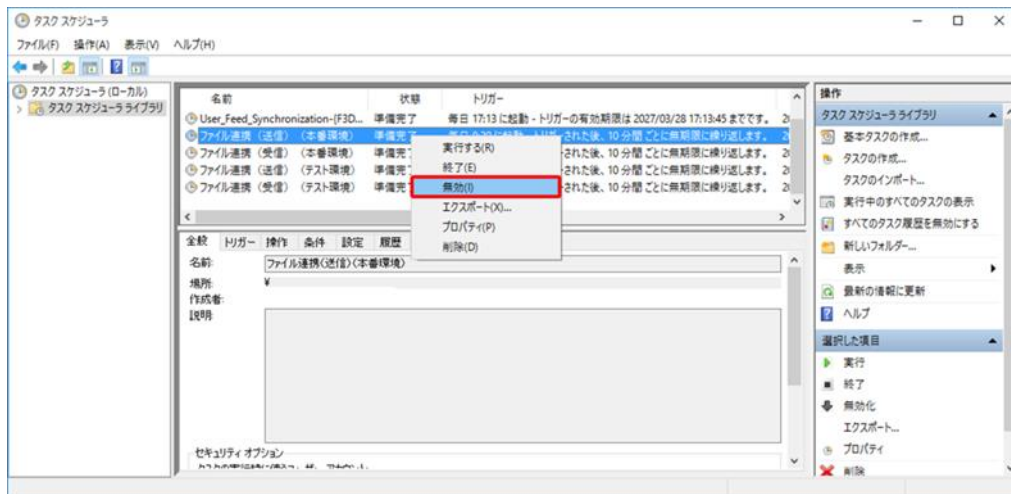


【このページは白紙です】

付録.F.2 タスクの無効化手順

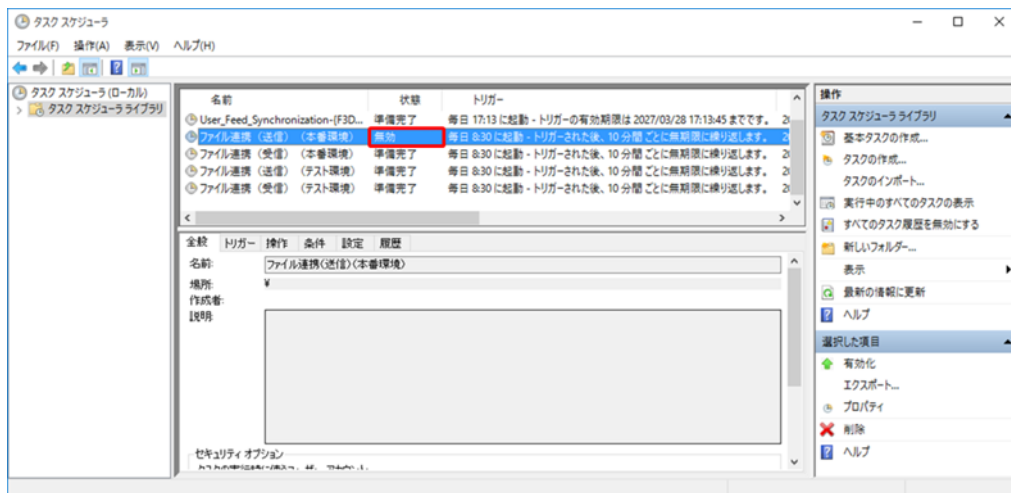
次に示す手順で操作します。

1. 「付録.F.1 タスクの有効化手順」の手順 1.～手順 4. を行い、「タスク スケジューラ」を起動します。
2. 本番環境またはテスト環境を使用しない場合、使用しない環境のタスクを無効にします。ここでは、ファイル連携（送信）（本番環境）処理を無効にする手順を説明します。



「タスク スケジューラ」画面で、[ファイル連携（送信）（本番環境）]を選択して右クリックし、メニューから[無効]を選択します。

3. 画面中央に表示されるファイル連携（送信）（本番環境）処理の状態が「無効」に変更されたことを確認します。



【このページは白紙です】

付録.G タスクの実行時間帯変更手順

タスクの実行時間帯を変更する手順について説明します。

「4.1.1 タスクスケジューラを設定する」において、ファイル連携の実行時間帯を 24 時間に設定した場合、国保情報集約システムの中ドルウェアが停止している時間帯にも 10 分おきにファイル連携処理を行うため、エラーとなる場合があります。

実行時間帯から中ドルウェアが停止する時間帯を除外することにより、国保情報集約システムの中ドルウェアが停止している時間帯のファイル連携処理が行われなくなりエラーを抑制することが可能です。

実行時間帯から中ドルウェアが停止する時間帯を除外する場合、次に示す手順 1. ～手順 8. を繰り返し行い、次の 4 つのタスクの設定を変更します。

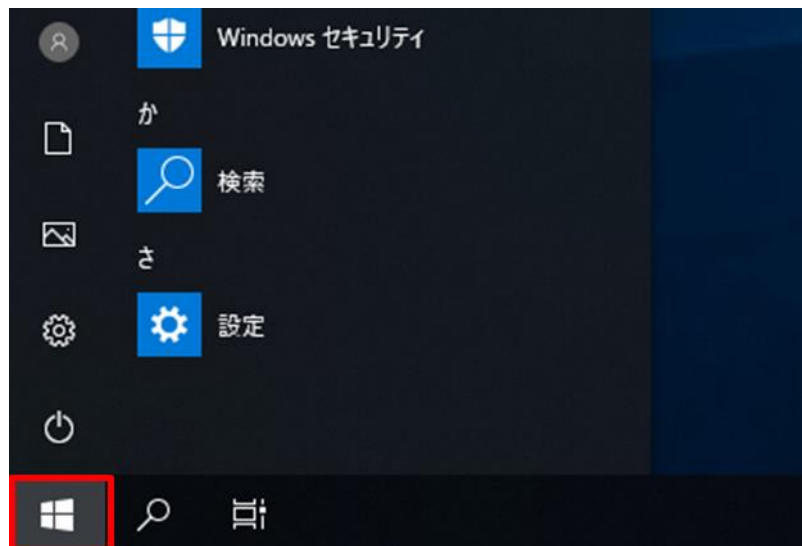
- ・ ファイル連携（送信）（本番環境）
- ・ ファイル連携（受信）（本番環境）
- ・ ファイル連携（送信）（テスト環境）
- ・ ファイル連携（受信）（テスト環境）

ここでは、ファイル連携（送信）（テスト環境）を例に説明します。

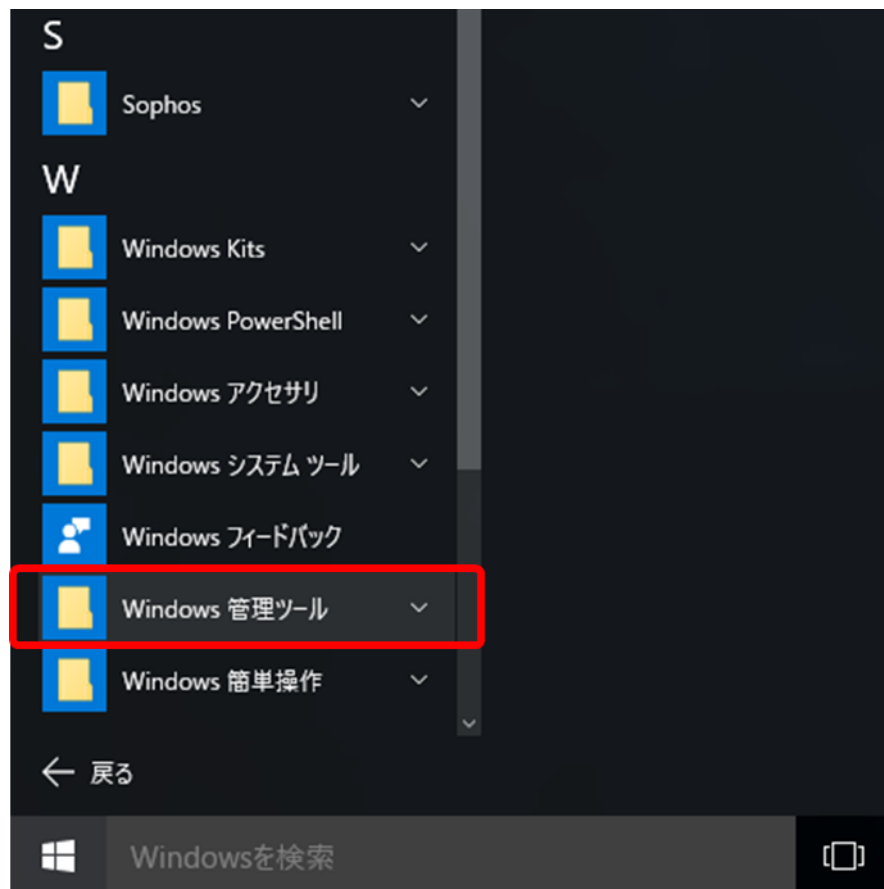
⚠ 注意事項

- ・ 本手順は LTSC 2019 の手順例です。バージョンによって手順に差異がある場合がありますので、バージョンに合わせて設定してください。

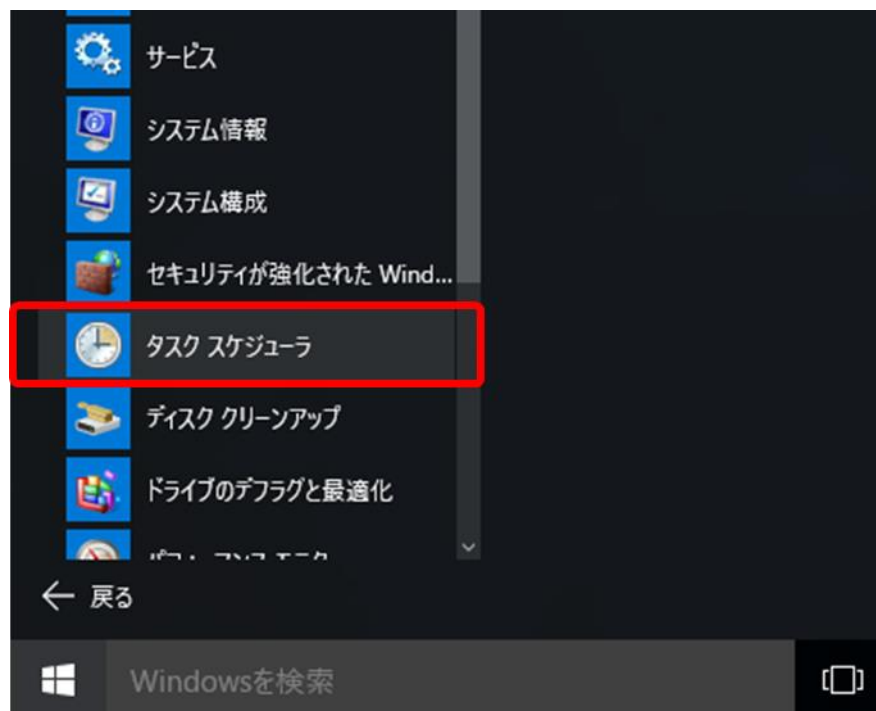
1. [スタート]アイコンをクリックします。



2. [Windows 管理ツール]をクリックします。

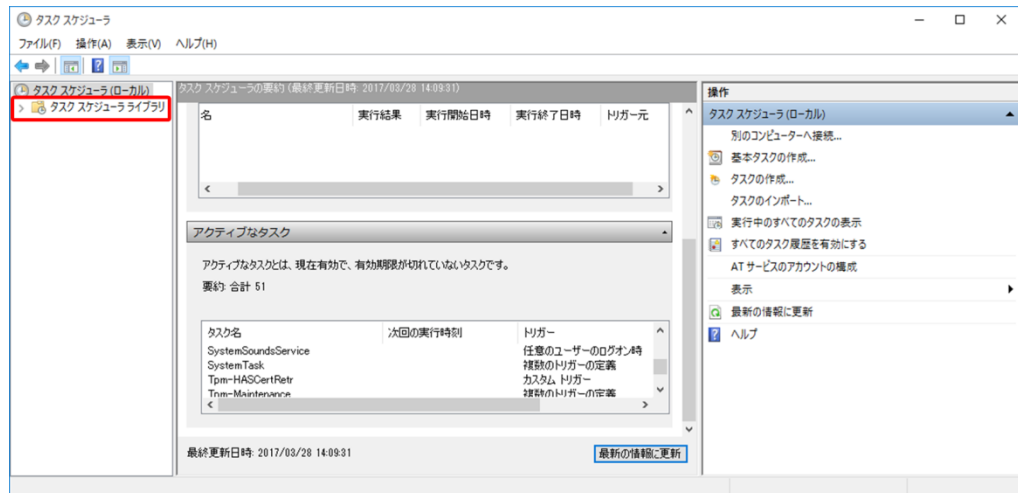


3. [タスク スケジューラ]をクリックします。

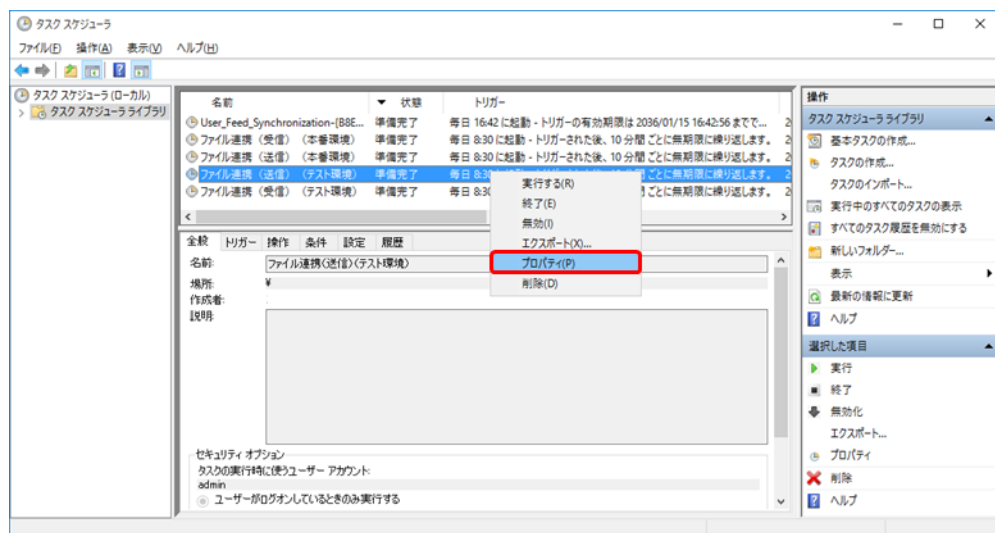


「タスク スケジューラ」画面が表示されます。

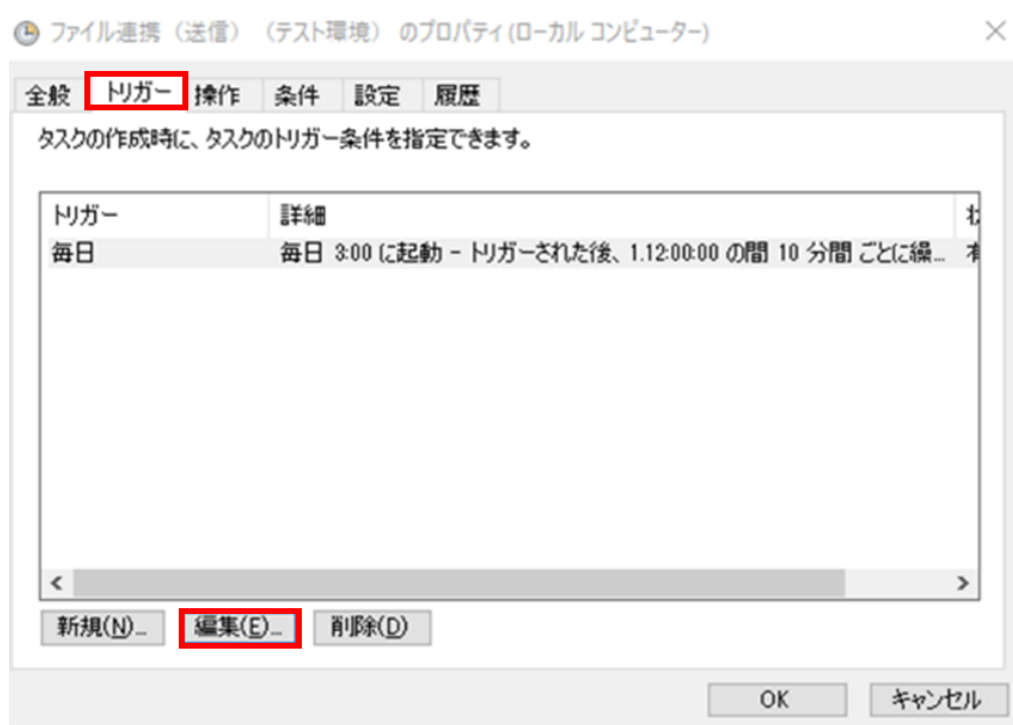
4. [タスク スケジュールライブラリ]をクリックします。



5. 対象となるタスクを選択して右クリックし、メニューから[プロパティ]を選択します。



6. [トリガー]タブを選択し、[編集]ボタンをクリックします。



「トリガーの編集」画面が表示されます。

7. 「トリガーの編集」画面で、次の値を設定し、[OK]ボタンをクリックします。「トリガーの編集」画面の設定値を表 G-1 に示します。

トリガーの編集

タスクの開始(G): スケジュールに従う

設定

① 開始(S): 2023/12/11 3:00:00 タイムゾーン間で同期(Z)

間隔(C): 1 日

② 継続時間(E): 1260

詳細設定

遅延時間を指定する(ランダム)(K): 1時間

繰り返し間隔(P): 10分間

繰り返し継続時間の最後に実行中のすべてのタスクを停止する(I)

停止するまでの時間(L): 3日間

有効期限(X): 2024/12/10 17:39:51 タイムゾーン間で同期(E)

有効(B)

OK キャンセル

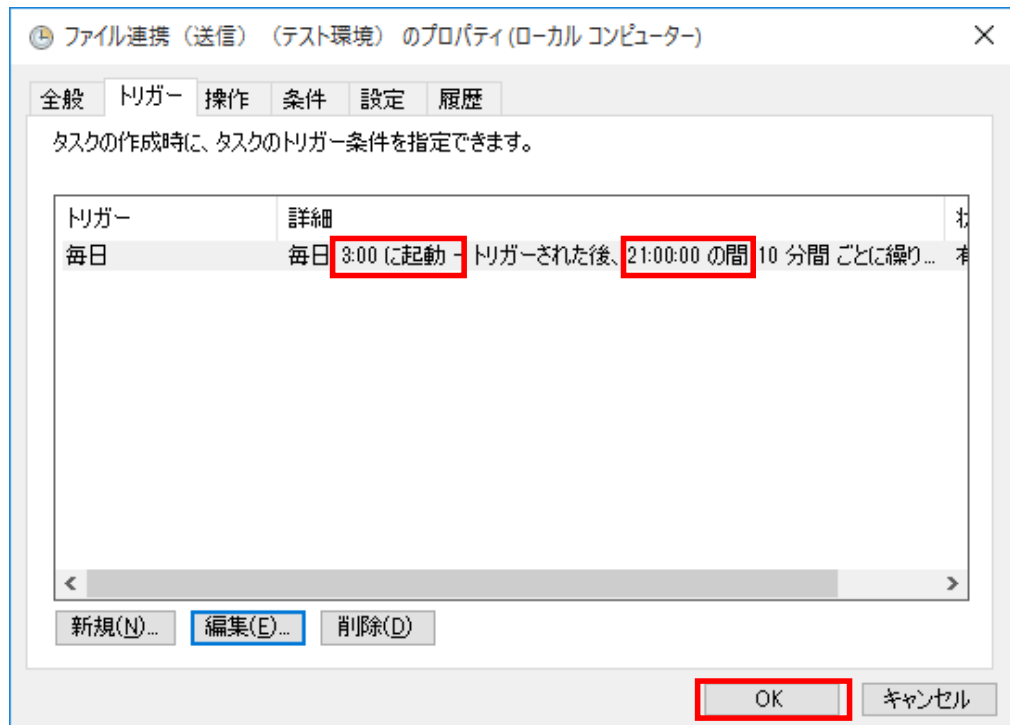
図中の丸付き数字は、次の表の No. と対応しています。

表 G-1 「トリガーの編集」画面の設定値

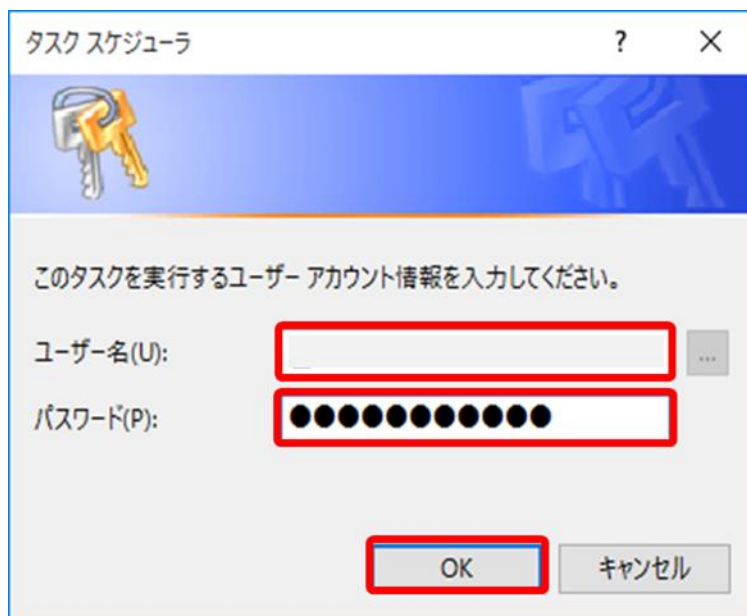
No.	設定項目	設定値
1	開始	タスクの使用を開始する年月日を設定し、時刻にはタスクの開始時刻*を設定する
2	継続時間	タスクの開始時刻から停止時刻*までの時間を分単位で設定する (例) 3:00~24:00 まで実行する場合 3:00~24:00=21 時間=1260 分 1260 を入力する

注※ 国保情報集約システムの中ドルウェアが停止する時間帯については業務処理量によって日ごとに変動するため、タスクの開始時刻および停止時刻については国保連合会に確認してください。

8. 「トリガー」タブに、設定した「開始（時刻）」および「継続時間」の値が反映されていることを確認し、[OK]ボタンをクリックします。



9. 「タスク スケジューラ」画面で「ユーザー名」に「コンピュータ名¥Administrator」、
「パスワード」に Administrator のパスワードを設定し、[OK]ボタンをクリックしま
す。



付録.H メッセージ一覧

付録.H.1 自動連携ログのメッセージ形式

データ連携用 PC で出力される自動連携ログのメッセージ形式について説明します。
自動連携ログのメッセージは次に示す形式で出力されます。

【形式】

メッセージ ID	メッセージテキスト
----------	-----------

メッセージ ID について

各メッセージを識別する ID が「XXMnnnni」の形式で出力されます。

- XX
次の表に示すサブシステム ID が出力されます。

表 H-1 サブシステム ID の種類

No.	サブシステム ID	説明
1	SA	国保情報集約システムのメッセージであることを示します。
2	SZ	国保情報集約システムの基盤機能のメッセージであることを示します。

- M
固定文字が出力されます。
- nnnn
メッセージ番号が出力されます。メッセージ番号とは、各メッセージに付けられている 0001、0002 などの、4桁の固有の番号のことです。
- i
次の表に示すメッセージの種類が出力されます。

表 H-2 メッセージの種類

No.	種類	内容
1	E (エラー)	エラーが発生したときに出力されるメッセージです。
2	W (警告)	確認が必要なときに出力されるメッセージです。

メッセージテキストについて

メッセージの内容を示すテキストが出力されます。

【このページは白紙です】

付録.H.2 自動連携ログのメッセージ詳細

データ連携用 PC で出力される自動連携ログのメッセージと対処方法を、次の表に示します。なお、{ } で示した部分には、処理対象や状況に応じた値が表示されます。

表 H-3 表示されるメッセージと対処方法

No.	メッセージ ID	メッセージ	対処方法
1	SZM5050E	予期しないエラーが発生しました。 (詳細 = {0}) {0} : null と出力され、さらに次のような内容が出力されている。 HTTP トランスポート・エラー: java.net.ConnectException	国保情報集約システムにアクセスできない場合に発生します。 「付録.I データ連携用 PC のファイル送受信に係るエラーへの対処方法などについて」(1)を参照し、対応を行ってください。
2		予期しないエラーが発生しました。 (詳細 = {0}) {0} : null と出力され、さらに次のような内容が出力されている。 HTTP トランスポート・エラー: javax.net.ssl.SSLHandshakeException	テスト環境と本番環境の SSL 自己証明書を誤って使用した場合や、国保情報集約システムの接続先サーバ以外の SSL 自己証明書を使用した場合などに発生します。 「付録.I データ連携用 PC のファイル送受信に係るエラーへの対処方法などについて」(2)を参照し、対応を行ってください。
3		予期しないエラーが発生しました。 (詳細 = {0}) {0} : null と出力され、さらに次のような内容が出力されている。 HTTP トランスポート・エラー: javax.net.ssl.SSLException	ファイル名称、パスの指定に誤りがあった場合などに発生します。 「付録.I データ連携用 PC のファイル送受信に係るエラーへの対処方法などについて」(3)を参照し、対応を行ってください。
4		予期しないエラーが発生しました。 (詳細 = {0}) {0} : null と出力され、さらに次のような内容が出力されている。 HTTP トランスポート・エラー: java.net.SocketException	クライアント認証に失敗した場合に発生します。 キーストアファイルのファイル名称、パスの指定に誤りがあった場合などに発生します。 「付録.I データ連携用 PC のファイル送受信に係るエラーへの対処方法などについて」(4)を参照し、対応を行ってください。
5		予期しないエラーが発生しました。 (詳細 = {0}) {0} : null と出力され、さらに次のような内容が出力されている。 HTTP トランスポート・エラー: java.net.UnknownHostException	接続先ドメインの名前解決に失敗した場合に発生します。 「3.3.4 hosts ファイルの編集」と「3.4.1 アプリケーションの接続設定」の手順を再度実施してください。

No.	メッセージ ID	メッセージ	対処方法
6	SZM5050E	予期しないエラーが発生しました。 (詳細={0}) {0} : null と出力され、さらに次のような内容が出力されており、No. 1~5 以外の内容である。 HTTP トランスポート・エラー	通信エラーが発生している可能性があります。 「5.5.1 通信エラーの対応について」を参照し、対応を行ってください。
7		予期しないエラーが発生しました。 (詳細={0}) {0} : null と出力され、さらに次のような内容が出力されている。 XML リーダ・エラー	バックアップ処理時間帯、メンテナンス処理時間帯およびミドルウェアを停止している時間帯に発生した場合、無視して構いません。 上記以外の時間帯に発生した場合、「5.5.1 通信エラーの対応について」を参照し、対応を行ってください。
8		予期しないエラーが発生しました。 (詳細={0}) {0} : null と出力され、さらに次のような内容が出力されている。 received SOAP Fault from server: ファイル削除に失敗しました。	データベースを移行した環境において、連携ファイルを受信しようとした場合に発生します。 「付録.I データ連携用 PC のファイル送受信に係るエラーへの対処方法などについて」(6)を参照し、対応を行ってください。
9		予期しないエラーが発生しました。 (詳細={0}) {0} : Unhandled Exception occurred. (Class=java.lang.Exception Message=ClientAuth failed (NNN-HHHHHHHH)) NNN : 市町村連番 HHHHHHHH : 市町村保険者番号	市町村保険者番号が誤っている場合に発生します。 「3.4.2 市町村保険者番号の設定」を再度実施してください。 市町村保険者番号が誤っていない場合は、国保連合会に市町村保険者番号と市町村連番の組み合わせが正しいことを確認してください。
10	SZM5051E	予期しないエラーが発生しました。 (詳細={0}) {0} : java.lang.NoClassDefFoundError	データ連携用 PC のプログラムの実行に必要な Java が提供するクラスファイルがない場合に発生します。 「付録.I データ連携用 PC のファイル送受信に係るエラーへの対処方法などについて」(5)を参照し、対応を行ってください。

No.	メッセージID	メッセージ	対処方法
11	SZM5059E	{0}（{1}）と対になる{2}が含まれていません。 {0}：資格情報（世帯）ファイル {1}：ファイル名 {2}：資格情報（個人）ファイル	資格情報（世帯）ファイルと資格情報（個人）ファイルを次のフォルダに格納します。 本番環境への自動連携の場合 D:¥S_Kokuho¥Renkei¥Send テスト環境への自動連携の場合 D:¥S_Kokuho_Test¥Renkei¥Send 注 資格情報（個人）ファイルの格納が完了していないタイミングでファイル送信が行われ、本エラーが発生する場合があります。その場合、ファイルが揃った後に送信対象となり、ファイルは送信されるため、特段の対応は不要です。
12		{0}（{1}）と対になる{2}が含まれていません。 {0}：資格情報（個人）ファイル {1}：ファイル名 {2}：資格情報（世帯）ファイル	資格情報（世帯）ファイルと資格情報（個人）ファイルを次のフォルダに格納します。 本番環境への自動連携の場合 D:¥S_Kokuho¥Renkei¥Send テスト環境への自動連携の場合 D:¥S_Kokuho_Test¥Renkei¥Send 注 資格情報（世帯）ファイルの格納が完了していないタイミングでファイル送信が行われ、本エラーが発生する場合があります。その場合、ファイルが揃った後に送信対象となり、ファイルは送信されるため、特段の対応は不要です。
13	SZM5065E	{0}作成の{1}はすでに取込済です。 {0}：ファイル作成日付（YYYY/MM/DD） {1}：連携ファイル種別名	対象の連携ファイルはすでに取り込み済みです。連携対象のファイルが誤っていないか確認してください。
14	SZM5066W	{0}作成の{1}は{2}回目の受付です。 {0}：ファイル作成日付（YYYY/MM/DD） {1}：連携ファイル種別名 {2}：受付回数	対象の連携ファイルはアップロード済みです。連携対象のファイルが誤っていないか確認してください。
15	SZM5067E	同一作成日付（{0}）の{1}が複数含まれています。 {0}：連携ファイルの作成年月日 {1}：連携ファイル種別名	送信対象のファイルを見直し、次のフォルダに格納します。 本番環境への自動連携の場合 D:¥S_Kokuho¥Renkei¥Send テスト環境への自動連携の場合 D:¥S_Kokuho_Test¥Renkei¥Send

No.	メッセージID	メッセージ	対処方法
16	SZM5069E	{0}のファイル名に誤りがあります。 ({1}) {0} : 連携ファイル種別名 {1} : ファイル名規則不一致	送信対象のファイル名を見直し、次のフォルダに格納します。 本番環境への自動連携の場合 D:¥S_Kokuho¥Renkei¥Send テスト環境への自動連携の場合 D:¥S_Kokuho_Test¥Renkei¥Send
17		{0}のファイル名に誤りがあります。 ({1}) {0} : 連携ファイル種別名 {1} : 市町村保険者番号不一致	送信対象のファイルの市町村保険者番号を見直し、次のフォルダに格納します。 本番環境への自動連携の場合 D:¥S_Kokuho¥Renkei¥Send テスト環境への自動連携の場合 D:¥S_Kokuho_Test¥Renkei¥Send
18		{0}のファイル名に誤りがあります。 ({1}) {0} : 連携ファイル種別名 {1} : 日付不正	送信対象のファイル名(日付)を見直し、次のフォルダに格納します。 本番環境への自動連携の場合 D:¥S_Kokuho¥Renkei¥Send テスト環境への自動連携の場合 D:¥S_Kokuho_Test¥Renkei¥Send
19		{0}のファイル名に誤りがあります。 ({1}) {0} : 連携ファイル種別名 {1} : 日時不正	送信対象のファイル名(日時)を見直し、次のフォルダに格納します。 本番環境への自動連携の場合 D:¥S_Kokuho¥Renkei¥Send テスト環境への自動連携の場合 D:¥S_Kokuho_Test¥Renkei¥Send
20	SZM5071E	アップロードできない連携ファイルが含まれています。({0}) {0} : ファイル名	ファイル自動連携(送信)の対象となるCSVファイルのみ、次のフォルダに格納します。 本番環境への自動連携の場合 D:¥S_Kokuho¥Renkei¥Send テスト環境への自動連携の場合 D:¥S_Kokuho_Test¥Renkei¥Send
21	SZM5080E	{0}作成の{1}より新しいファイルがすでに取込済です。 {0} : ファイル作成日付(YYYY/MM/DD) {1} : 連携ファイル種別名	対象の連携ファイルより新しい日付のファイルがすでに取り込み済みです。連携対象のファイルが誤っていないか確認してください。

No.	メッセージ ID	メッセージ	対処方法
22	SZM5081E	<p>{0}（{1}）と対になる{2}のファイル名に誤りがあります。（{3}）</p> <p>{0}：資格情報（世帯）ファイル {1}：ファイル名 {2}：資格情報（個人）ファイル {3}：日時不正</p>	<p>送信対象の資格情報（世帯）ファイルと対になる資格情報（個人）ファイルのファイル名（日時）を見直し、次のフォルダに格納します。</p> <p>本番環境への自動連携の場合 D:¥S_Kokuho¥Renkei¥Send テスト環境への自動連携の場合 D:¥S_Kokuho_Test¥Renkei¥Send</p>
23		<p>{0}（{1}）と対になる{2}のファイル名に誤りがあります。（{3}）</p> <p>{0}：資格情報（個人）ファイル {1}：ファイル名 {2}：資格情報（世帯）ファイル {3}：日時不正</p>	<p>送信対象の資格情報（個人）ファイルと対になる資格情報（世帯）ファイルのファイル名（日時）を見直し、次のフォルダに格納します。</p> <p>本番環境への自動連携の場合 D:¥S_Kokuho¥Renkei¥Send テスト環境への自動連携の場合 D:¥S_Kokuho_Test¥Renkei¥Send</p>

【このページは白紙です】

付録. I データ連携用 PC のファイル送受信に係るエラーへの対処方法などについて

付録. I. 1 データ連携用 PC の送受信に係るエラーについての要因および対処

(1) SZM5050E : 予期しないエラー (java.net.ConnectException)

データ連携用 PC のログファイルにエラーメッセージ「SZM5050E : 予期しないエラーが発生しました。」、「java.net.ConnectException」が出力されます。

```
2018/02/01, 10:00:00.001, .. (中略) .., SZM5050E : 予期しないエラーが発生しました。(詳細=null)
jp.co.hitachi.prego.exce.. (中略) ..HTTP トランスポート・エラー:
java.net.ConnectException.. (後略)
```

注 ログファイルのファイル名は HHHHHHHH_YYYYMMDD_send.log、HHHHHHHH_YYYYMMDD_receive.log です。ファイル名の HHHHHHHH は市町村保険者番号、YYYYMMDD は出力年月日を示します。

【要因】

「3.3.4 hosts ファイルの編集」で設定した接続先 IP アドレス (国保情報集約システムの接続先 IP アドレスを、市町村で導入するファイアウォールで NAT 変換を行った IP アドレス) にデータ連携用 PC のプログラムがアクセスできない場合に発生します。国保情報集約システムにアクセスできない要因として、次のケースが考えられます。

- ・ 接続先 IP アドレスが誤っている。
- ・ 市町村で導入するファイアウォールの設定が誤っている。

注 市町村で導入するファイアウォールで NAT 変換を行うことを前提として記載しています。

【対処】 (市町村での作業)

(a) Internet Explorer でのアクセス可否の確認

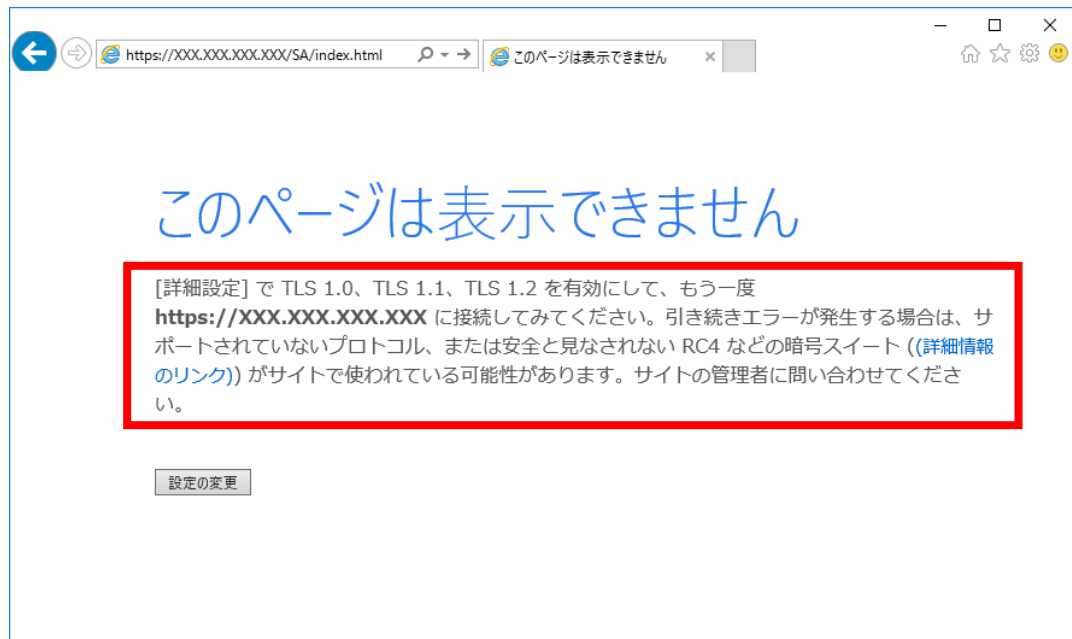
国保情報集約システムがオンライン開局中にデータ連携用 PC で Internet Explorer を起動し、次に示す URL を指定することで、国保情報集約システムのサーバへアクセス可否できるか確認します。

「<https://接続先 IP アドレス/SA/index.html>」

注 国保情報集約システムの接続先 IP アドレスを市町村で導入するファイアウォールで NAT 変換を行った IP アドレスです。

接続先 IP アドレスが正しく、市町村で導入するファイアウォールなどのネットワークの設計、設定に問題がない場合、「この Web サイトのセキュリティ証明書には問題があります。」と画面表示されます。さらに、この画面の下部に表示されるリンク「このサイトの閲覧を続行する（推奨されません）」をクリックすることで、次の図の枠内の文字が表示されるか確認してください。

枠内の文字が表示された場合は「(b) データ連携用 PC の接続先 IP アドレスの再設定」の手順、枠内の文字が表示されない場合は「(c) ネットワーク設計、設定の見直し」の手順に進みます。



(b) データ連携用 PC の接続先 IP アドレスの再設定（「(a) Internet Explorer でのアクセス可否の確認」の手順において Internet Explorer で枠内の文字が表示される場合）

データ連携用 PC の接続先 IP アドレスに係る設定が誤っている可能性がありますので、「3.3.4 hosts ファイルの編集」に示す手順で、クライアントの環境設定を再度実施してください。

(c) ネットワーク設計、設定の見直し（「(a) Internet Explorer でのアクセス可否の確認」の手順において Internet Explorer で枠内の文字が表示されない場合）

市町村で導入するファイアウォールなど、ネットワークの設計や機器設定が誤っている可能性があります。ネットワークの設計や機器設定の見直しを行ってください。

なお、問い合わせがあった例では、市町村で導入するファイアウォール NAT 変換の設定誤りのため通信エラーとなっている事例がありました。ネットワークの設計にもよりますが、市町村で導入するファイアウォールで NAT 変換を行う場合、本番環境への接続先 IP アドレス、テスト環境への接続先 IP アドレス、データ連携用 PC の IP アドレスの 3 つの NAT 変換が必要となります。

(2) SZM5050E : 予期しないエラー (javax.net.ssl.SSLHandshakeException)

データ連携用 PC のログファイルにエラーメッセージ「SZM5050E : 予期しないエラーが発生しました。」、「javax.net.ssl.SSLHandshakeException」が出力されます。

```
2018/02/01, 10:00:00.001, .. (中略) .., SZM5050E : 予期しないエラーが発生しました。(詳細=null)
jp.co.hitachi.prego.exce.. (中略) ..HTTP トランスポート・エラー:
javax.net.ssl.SSLHandshakeException.. (後略)
```

注 ログファイルのファイル名は HHHHHHHH_YYYYMMDD_send.log、HHHHHHHH_YYYYMMDD_receive.log です。ファイル名の HHHHHHHH は市町村保険者番号、YYYYMMDD は出力年月日を示します。

【要因】

「3.3.2 証明書の設定」において、テスト環境と本番環境の SSL 自己証明書を誤って使用した場合や、国保情報集約システムの接続先サーバ以外の SSL 自己証明書を使用した場合などに発生します。

【対処】(市町村での作業)

(a) SSL 自己証明書の再設定

誤った自己証明書を削除し、正しい自己証明書の設定作業を行います。

本番環境の場合は、「D:¥S_Kokuho¥SZ¥Tool¥truststore」フォルダ下のファイル、テスト環境の場合は、「D:¥S_Kokuho_Test¥SZ¥Tool¥truststore」フォルダ下のファイルを削除してください。

ファイルを削除した後、正しい SSL 自己証明書を使用して、「3.3.2 証明書の設定」に示す手順で証明書の設定作業を実施してください。

注 SSL 自己証明書の補足説明を次に示します。

- ・【対処】に記載しているフォルダのパスは、データ連携用 PC のパスです。
- ・SSL 自己証明書は国保連合会から市町村に提供します。なお、業務端末(市町村)の設定に使用する SSL 自己証明書と同じファイルです。

(b) SSL インспекション機能の確認

「(a) SSL 自己証明書の再設定」の証明書の設定作業の見直しにて解決しない場合は、通信経路上のファイアウォールなどの機器において、SSL インспекション機能を使用していないかを、市町村内のネットワーク管理者に確認してください。

SSL インспекション機能を使用している場合は、SSL 自己証明書が書き換えられないように、SSL インспекションの対象から、データ連携用 PC と負荷分散装置間の通信を除外する設定を行ってください。設定していない場合、データ連携用 PC と負荷分散装置間の通信が確立できなくなります。

(3) SZM5050E : 予期しないエラー (javax.net.ssl.SSLException)

データ連携用 PC のログファイルにエラーメッセージ「SZM5050E : 予期しないエラーが発生しました。」、「javax.net.ssl.SSLException」が出力されます。

```
2018/02/01, 10:00:00.001, .. (中略) .., SZM5050E : 予期しないエラーが発生しました。 (詳細=null)
jp. co. hitachi. prego. exce.. (中略) ..HTTP トランスポート・エラー:
javax.net.ssl.SSLException.. (後略)
```

注 ログファイルのファイル名は HHHHHHHH_YYYYMMDD_send.log、HHHHHHHH_YYYYMMDD_receive.log です。ファイル名の HHHHHHHH は市町村保険者番号、YYYYMMDD は出力年月日を示します。

【要因】

「3.3.2 証明書の設定」で示す作業手順 (keytool コマンドの実行手順) に誤りがあった場合などに発生します。

トラスファイルのファイル名称やパスの指定 (本番環境の場合は「D:¥S_Kokuho¥SZ¥Tool¥truststore¥truststore」、テスト環境の場合は「D:¥S_Kokuho_Test¥SZ¥Tool¥truststore¥truststore」) に誤りがあった場合などに発生します。

【対処】 (市町村での作業)

誤った自己証明書を削除し、正しい自己証明書の設定作業を行います。

本番環境の場合は、「D:¥S_Kokuho¥SZ¥Tool¥truststore」フォルダ下のファイル、テスト環境の場合は、「D:¥S_Kokuho_Test¥SZ¥Tool¥truststore」フォルダ下のファイルを削除してください。

ファイルを削除した後、正しい SSL 自己証明書^{*2}を使用して、「3.3.2 証明書の設定」に示す手順で証明書の設定作業を実施してください。

注 自己証明書の補足説明を次に示します。

- ・【要因】、【対処】に記載しているファイル、フォルダのパスは、データ連携用 PC のパスです。
- ・SSL 自己証明書は国保連合会から市町村に提供します。なお、業務端末 (市町村) の設定に使用する SSL 自己証明書と同じファイルです。

(4) SZM5050E : 予期しないエラー (java.net.SocketException)

データ連携用 PC のログファイルにエラーメッセージ「SZM5050E : 予期しないエラーが発生しました。」、「java.net.SocketException」が出力されます。

```
2018/02/01, 10:00:00.001, .. (中略) .., SZM5050E : 予期しないエラーが発生しました。(詳細=null)
jp. co. hitachi. prego. exce.. (中略) ..HTTP トランスポート・エラー:
java.net.SocketException.. (後略)
```

注 ログファイルのファイル名は HHHHHHHH_YYYYMMDD_send. log、HHHHHHHH_YYYYMMDD_receive. log です。ファイル名の HHHHHHHH は市町村保険者番号、YYYYMMDD は出力年月日を示します。

【要因】

「3.3.2 証明書の設定」で示す作業手順 (keytool コマンドの実行手順) に誤りがあった場合などに発生します。

キーストアファイルへのパスワード入力に対して、「changeit」以外を入力した場合や、キーストアファイルのファイル名称やパスの指定 (本番環境の場合は「D:¥S_Kokuho¥SZ¥Tool¥truststore¥truststore」^{※1}、テスト環境の場合は「D:¥S_Kokuho_Test¥SZ¥Tool¥truststore¥truststore」^{※1}) に誤りがあった場合などに発生します。

【対処】 (市町村での作業)

誤った自己証明書を削除し、正しい自己証明書の設定作業を行います。

本番環境の場合は、「D:¥S_Kokuho¥SZ¥Tool¥truststore」^{※1} フォルダ下のファイル、テスト環境の場合は、「D:¥S_Kokuho_Test¥SZ¥Tool¥truststore」^{※1} フォルダ下のファイルを削除してください。

ファイルを削除した後、正しい SSL 自己証明書^{※2}を使用して、「3.3.2 証明書の設定」に示す手順で証明書の設定作業を実施してください。

注※1 【要因】、【対処】に記載しているファイル、フォルダのパスは、データ連携用 PC のパスです。

注※2 SSL 自己証明書は国保連合会から市町村に提供します。なお、業務端末 (市町村) の設定に使用する SSL 自己証明書と同じファイルです。

(5) SZM5051E : 予期しないエラー (java.lang.NoClassDefFoundError)

データ連携用 PC のログファイルにエラーメッセージ「SZM5051E : 予期しないエラーが発生しました。(詳細=java.lang.NoClassDefFoundError)」が出力されます。

2018/02/01, 10:00:00.001, .. (中略) ..SZM5051E: 予期しないエラーが発生しました。 (詳細=java.lang.NoClassDefFoundError: javax/xml/ws/WebServiceException)

注 ログファイルのファイル名は HHHHHHHH_YYYYMMDD_send.log、
HHHHHHHH_YYYYMMDD_receive.log です。ファイル名の HHHHHHHH は市町村保険者番号、YYYYMMDD は出力年月日を示します。

【要因】

データ連携用 PC のプログラムの実行に必要な Java が提供するクラスファイルがなく、エラーとなっています。

【対処】(市町村での作業)

次に示す流れで Java のアンインストールおよびインストールを行います。

1. データ連携用 PC にインストールされている「Java 8 Update 202 (64-bit)」をアンインストールしてください。
2. アンインストール後、データ連携用 PC を再起動してください。
3. 次のフォルダ配下のフォルダおよびファイルをすべて削除してください。
C:\\$S_Kokuho¥PP¥Java¥jre1.8.0_202
4. 「付録. A ミドルウェアインストール手順」 - 「(1) Oracle Java Standard Edition のインストール」を参照し、Java のインストールを行ってください。

(6) SZM5050E : 予期しないエラー (ファイル削除に失敗)

データ連携用 PC のファイル自動連携 (受信) 処理において、ログファイルにエラーメッセージ「SZM5050E : 予期しないエラーが発生しました。」「ファイル削除に失敗しました。」が出力されます。

```
2018/02/01, 10:00:00.001, .. (中略) .., SZM5050E : 予期しないエラーが発生しました。(詳細=null)
jp.co.hitachi.prego.exce.. (中略) ..received SOAP Fault from server: ファイル削除に失敗しました。.. (後略)
```

注 ログファイルのファイル名は HHHHHHHH_YYYYMMDD_send.log、HHHHHHHH_YYYYMMDD_receive.log です。ファイル名の HHHHHHHH は市町村保険者番号、YYYYMMDD は出力年月日を示します。

【要因】

本番環境からテスト環境にデータベースを移行した環境において、連携ファイルを受信しようとした場合に発生する場合があります。

データ連携用 PC は受信していない連携ファイルを国保情報集約システムのデータベースで確認し、受信します。しかし、データベースを移行した環境においては、受信していない連携ファイルの情報が国保情報集約システムのデータベースに存在しますが、連携ファイルが存在しないため、エラーとなります。

【対処】 (国保連合会での作業)

移行先環境は、次期国保総合システムとのマッチング作業を行うための環境となっていますので、データ連携用 PC での連携ファイルの受信はできませんので、データ連携用 PC のファイル自動連携 (受信) 処理においてエラーメッセージ「SZM5050E : 予期しないエラーが発生しました。(ファイル削除に失敗しました。)」が、出力された場合は、無視してください。

移行先環境でデータ連携用 PC のファイル自動連携 (受信) 処理を実施する際に当該エラーを発生させたくない場合は、移行先環境の運用管理サーバ (連合会区画) にて、次に示す手順で SQL を実行し、連携ファイルの情報を「データ連携用 PC で受信済み」の状態に変更します。

なお、実行する SQL は移行先がテスト環境か本番環境かにより変わります。

1. コマンドプロンプトを起動します。
2. 次のコマンドをコピーし、コマンドプロンプトに張り付けて Enter キーを押下します。
psql -d Syuyaku -U syuyakubadm01
3. DB ユーザ「syuyakubadm01」のパスワードを入力して、Enter キーを押下します。

4. 移行先の環境に合わせて、次のいずれかの SQL 文を入力します。

《データベースの移行元が本番環境、移行先がテスト環境の場合》

```
UPDATE△TSZ21_DLFILEKNR△SET△DL_SHR_JUKYU_KBN_CD△=△'0200' △WHERE△  
FILE_PS△=△'//XBxxPSH001/S_Kokuho_S/S_Kokuho/Renkei/Send';  
COMMIT;
```

《データベースの移行元がテスト環境、移行先が本番環境の場合》

```
UPDATE△TSZ21_DLFILEKNR△SET△DL_SHR_JUKYU_KBN_CD△=△'0200' △WHERE△  
FILE_PS△=△'//XBxxPS1001/S_Kokuho_S/S_Kokuho/Renkei/Send';  
COMMIT;
```

注 SQL 文の凡例について、次に示します。

- ・ △：半角スペース
- ・ xx：都道府県番号

5. 次のコマンドを入力して、Enter キーを押下します。

```
Exit;
```

6. 右上の[×]ボタンをクリックして「管理者:コマンドプロンプト」画面を閉じます。

<参考>SQL での処理内容について

連携ファイルをデータ連携用 PC で受信しているかの情報は、データベース「TSZ21_ダウンロードファイル管理」の項目「ダウンロード処理状況区分コード」で保持しています。移行元環境においてデータ連携用 PC により受信されていない場合、この項目には「0100：未送信」となっているため、移行先環境での SQL 実行により「0200：送信済」（「データ連携用 PC で受信済み」の状態）に変更することで、データ連携用 PC でのダウンロード対象外となります。

SQL では、移行された情報に対してのみ変更するようにしており、移行先環境で新たに追加された連携ファイルの情報については変更対象とはしていません。このため、移行後に移行先環境での処理により作成された連携ファイルは、データ連携用 PC でのダウンロード対象となります。

**(7) ログファイル (HHHHHHHH_YYYYMMDD_send.log、
HHHHHHHH_YYYYMMDD_receive.log) が出力されない**

データ連携用 PC のタスクスケジューラにてファイル自動連携を実行しても、ログファイルが出力されません。

注 ログファイルのファイル名は HHHHHHHH_YYYYMMDD_send.log、
HHHHHHHH_YYYYMMDD_receive.log です。ファイル名の HHHHHHHH は市町村保険者番号、YYYYMMDD は出力年月日を示します。

【要因】

タスクスケジューラの「操作の編集」画面で、「開始 (オプション)」項目への値の設定が漏れている場合などに発生します。

【対処】 (市町村での作業)

「5.3 タスクスケジューラの設定値確認」を参照し、タスクスケジューラの設定値の見直しを行ってください。

【このページは白紙です】